

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大阪府 泉大津市

自治体名：大阪府泉大津市

担当課名：スポーツ青少年課

電話番号：0725-33-9378

1.自治体の基本情報

基本情報

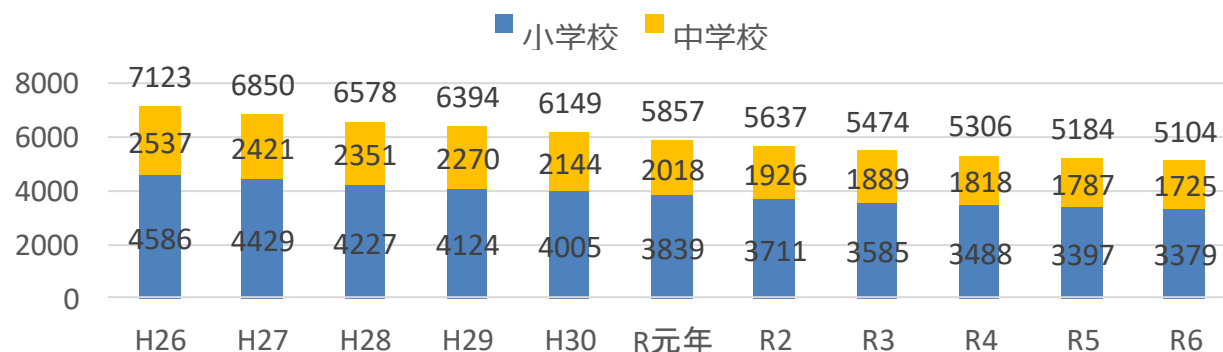
面積	14.33 km ²
人口	72,761 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	1,725 人
部活動数	44 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	検討中
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	作成済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

市の人口は減少傾向にあり、特に生徒数においては、約10年前と比較すると約800人減少しており、減少数は現在の中学校1校の在籍生よりも多い人数になっている。それと同時に部活動加入率も年々低下している現状である。この現況から、生徒がスポーツに親しめる環境を継続していくとともに、教職員の負担軽減に取り組むため、学校にはない合同部活動や拠点校での部活動実施を推進していき、今後、地域スポーツクラブが受皿となった場合、将来的に自立して活動できる運用（財政基盤、活動場所の確保等）を構築する必要がある。

また、令和7年度についても既存の学校部活動を地域へ展開していくことを目標として各学校部活動の顧問等に現状をヒアリングし、中学校の部活が廃部となった場合の受皿を早期に構築させ課題解決を図っていく。

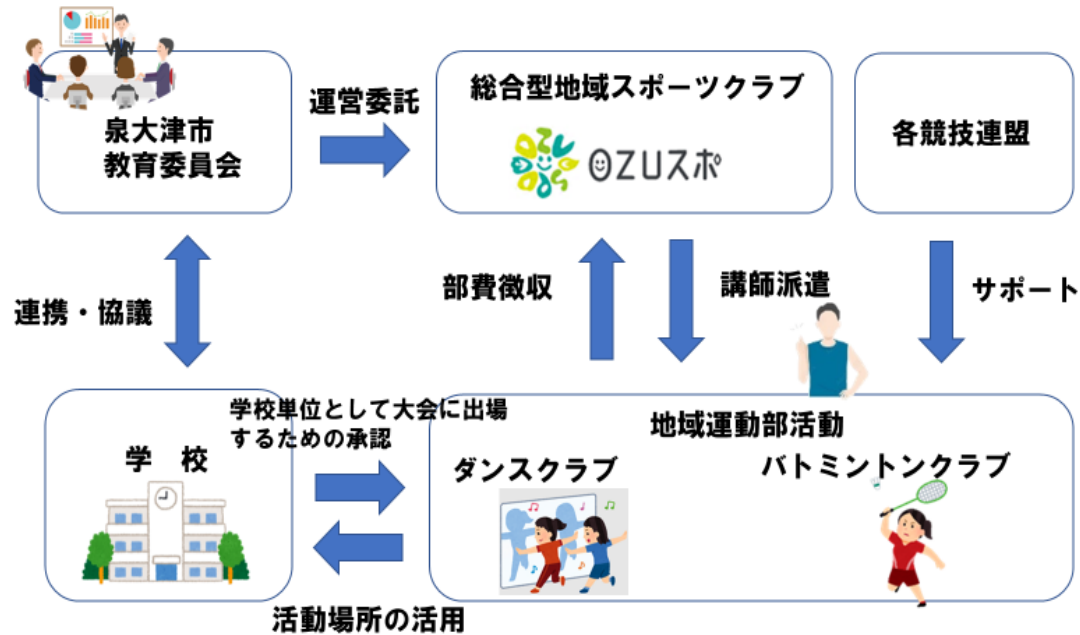
児童・生徒数の推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育委員会事務局教育部スポーツ青少年課（団体との連絡調整、事業展開）
- ・学校との連携・調整

年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|---|
| 令和6年4月 | <p>第1回担当者会議の開催
（関係者間の顔合わせ、方針、実施内容の確認）
地域スポーツクラブにおける活動内容の周知
地域スポーツクラブ活動の開始</p> |
| 令和6年6月 | <p>第2回担当者会議の開催
（地域スポーツクラブ活動に関する事項、進捗状況の報告等）</p> |
| 令和6年9月 | <p>第3回担当者会議の開催
（中間まとめ、地域スポーツクラブ活動に関する事項、進捗状況の報告等）</p> |
| 令和6年12月 | <p>第4回担当者会議の開催
（進捗状況の報告や課題の抽出等）</p> |
| 令和7年2月 | <p>第5回担当者会議の開催
（研修会の振り返り、成果報告に向けた話し合い等）
成果報告、来年度に向けた検討課題</p> |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
OZUSポ	総合型地域スポーツクラブ	ダンス	月4回	15:00～17:00	17人(1年生) 17人(2年生)	4月～3月	泉大津市立総合体育館	4人	2人	月会費 1,000円	その他： 学校部活動
OZUSポ	総合型地域スポーツクラブ	バドミントン	月4回	9:00～12:00	2人(2年生)	4月～3月	泉大津市立旭小学校	1人	2人	月会費 1,000円	その他： 地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和7年2月1日 9:00～12:00 地域バドミントンクラブ体験会
- 令和7年2月1日 15:00～17:00 地域ダンスクラブ体験会及びワークショップ

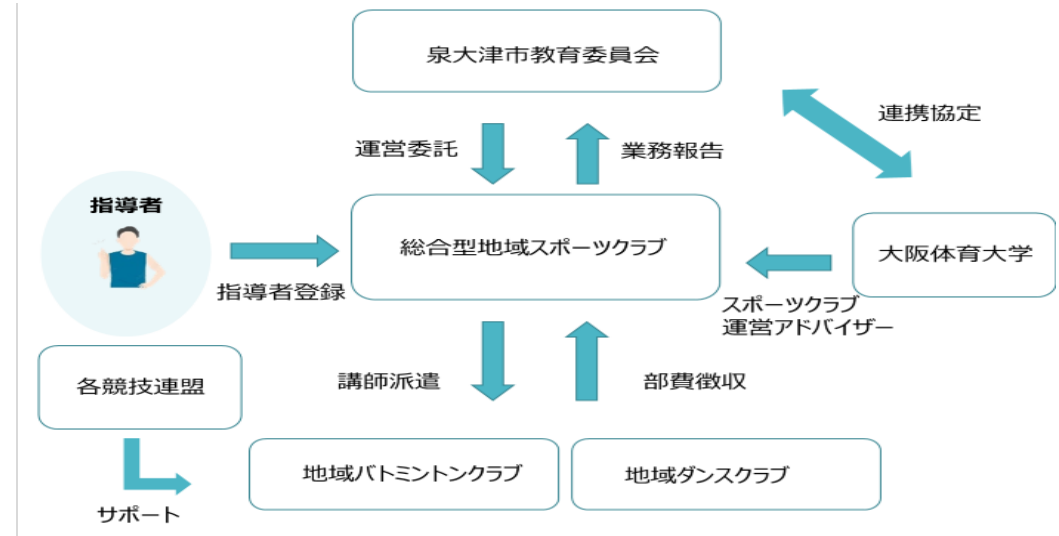
2.実証内容と成果

主な取組例

●クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ダンス、バドミントン
運営団体名	総合型地域スポーツクラブOZUSポ
期間と日数	ダンス：4月1日～3月31日 月4回程度 バドミントン：4月1日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	民間クラブ、教師
活動場所	泉大津市立総合体育館、 泉大津市立旭小学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	ダンス：12,000円 バドミントン：12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 総括責任者（クラブマネージャー）
役割：行政、指導者との打合せ、練習日の調整、施設の予約など、クラブ運営の全体調整を行う
- 技術指導者 5名
役割：ダンス、バドミントンの技術指導を行う
- 運営補助者 4名
役割：ダンス、バドミントンの運営補助（出欠確認、部費徴収、設営補助など）を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 **ウ：関係団体・分野との連携強化** / **オ：内容の充実**

取組事項（ウ）

地域スポーツクラブ運営主体の総合型地域スポーツクラブOZUの運営強化を図るため、地域スポーツ団体及び民間事業者等と連携し、運営強化の体制を構築していく。

取組の成果（ウ）

今年度、立ち上げた新たな地域運動部活動バドミントンクラブについては、総合型地域スポーツクラブOZUスポが運営を行い、指導者の派遣を行った。またOZUスポが市スポーツ協会に加盟するバドミントン連盟連携することで、指導者の補助者を連盟から派遣することができ、地域でバドミントンクラブの運営を行うことができた。

取組事項（オ）

地域スポーツクラブに参加している生徒へのアンケート調査を実施し、調査を基に生徒ニーズを地域スポーツクラブに反映していく。

取組の成果（オ）

地域運動部活動に参加している生徒と保護者に対して、満足度のアンケートを実施することができ、来年度以降の課題の検討をすることができた。

泉大津市地域クラブ活動アンケート(生徒用)

地域クラブにつきましては、教員の働き改革や子どもが地域でスポーツに親しむことのできる環境を確保する観点から、市がスポーツ庁の補助金を受けて、令和5年度に泉大津市総合型地域スポーツクラブ(OZU スポ)に委託してスタートを切り、令和6年度から「地域DANCEクラブ」「地域バドミントンCLUB」の2クラブが活動を行っています。つきましては、今後の地域クラブ活動の運営の参考とさせていただきます。アンケートを実施させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

Q1 どちらの地域クラブに所属していますか。
 地域 DANCE クラブ
 地域/バドミントン CLUB

Q2 泉大津市の部活動の再開については、1週間の内、平日1日以上、連休日1日以上
の休養日と想定しています。現在の週1回のクラブ活動についてどう思いますか。
 ちょうどよい
 少ない
 その他()

Q3 活動時間(2~3時間)についてどう思いますか。
 長い
 ちょうどよい
 短い

Q4 現在の地域クラブ活動への満足度をお願いします。
 大変満足
 満足
 普通
 満足していない(理由:)

Q5 中学校の部活動に参加していますか?
 参加している(部活動名:)
 参加していない

今後の課題と対応方針

・今年度は、バドミントン連盟との連携を図ることができたが、他の種目の受皿となった時のために、民間の事業者等の連携を構築していく必要があり、そのために総合型地域スポーツクラブOZUスポに関わる関係者を増やしていくことが今後、求められる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要コストを検証するとともに、コストをどのように賄っていくかについて受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検討する。会費の適切な設定・徴収方法の検討や、保護者負担経費の調査等を行った。

地域クラブに係る経費

■ランニングコストの分析

- ・事務局人件費（65千円）
- ・指導者謝金（959千円）
- ・旅費・交通費（5千円）
- ・借料及び損料（50千円）
- ・印刷製本費（3千円）
- ・雑役務費（14千円）
- ・保険料（26千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った

支出	
内容	金額（円）
事務局人件費	65,785
地域スポーツクラブ活動運営費	128,101
地域スポーツクラブ活動費	1,054,900
困難世帯への支援費	0
市区町村から地域スポーツ団体への再委託費	0
その他支出	0
合計	1,248,786

地域スポーツクラブ活動に要する費用※	
1人あたりの年間費用	40,283.42円/人
1人・1回当たりの費用	915.53円/人・回



区分	1回あたりの平均参加者数（人）	年間活動回数（回）	参加人数（人）×年間活動回数（回）
ダンス	28	44	1,232
バドミントン	3	44	132
			0
合計	31		1,364

※支出額から算出した1地域スポーツクラブ活動に要する費用
 ・1人当たりの年間費用 = 支出額 / 1回あたりの平均参加者数合計
 ・参加者1人の活動1回当たり費用 = 支出額 / (参加者数 × 年間活動回数)

保護者アンケート（受益者負担の項目）

〈調査の概要〉

- 1 調査の目的
 今後の地域運動部活動の課題、受益者負担等を検討するにあたり、その基礎データとなる地域運動部参加者の保護者意向を捉える。
- 2 調査期間
 令和7年1月18日～2月1日
- 3 調査方法
 - ・調査対象
 地域運動部活動参加者の保護者 36人
 - ・調査対象保護者及び回答者数
 36人中 34人 回答率：94.4%

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

今年度から、地域スポーツクラブ（地域運動部活動）に参加している生徒から部費の徴収を行った。スポーツ活動費における保険料、講師謝金等については、参加している生徒の受益者負担として、考える必要がある。受益者負担額の設定においては、活動への参加の有無にかかわらず、申込者全員で負担する方法で徴収し、保護者の負担軽減の観点から月1,000円を設定するとともに、保護者アンケートを実施することで地域で行われる活動に対する費用の考え方を把握することができた。

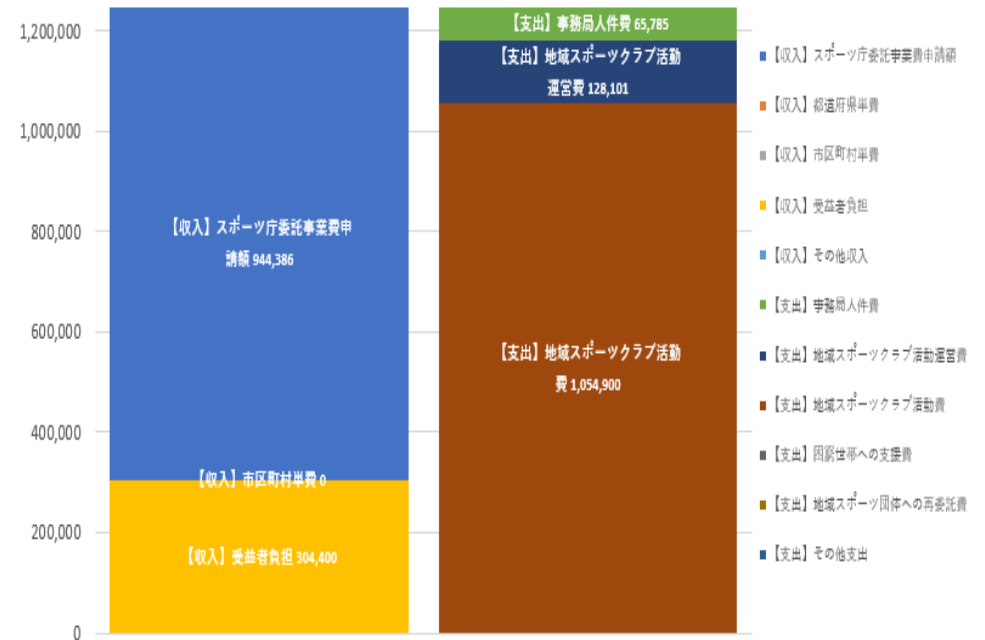
また、部費徴収については、1回参加することに負担を求めると、運営側の事務が煩雑になることから、3ヶ月ごとに徴収を行った。

今回の取組みの中から、現状の部費だけでは、地域スポーツクラブ（地域運動部活動）の運営が難しく、国費や地方自治体の財源等を活用しなければ、持続可能な運営は困難になると考えられる。

今後の課題と対応方針

・今年度から、月1,000円を地域スポーツクラブ（地域運動部活動）に参加している生徒から部費として徴収している。しかし、今後、生徒のニーズで活動回数が増加した場合に現在の部費で賄えるのか検討が必要である。地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要なコストを検証するとともに、こうしたコストをどのように賄っていくかについて受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検討する。また、経済困窮者が活動できるような減免制度を検討していく必要がある。

収支バランス



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項（キ）

今後、地域スポーツクラブが中学生の部活動の受皿となった場合において、活動場所をどのように確保していくかが課題となる。そのような場合を想定し、公的支援によって、優先的に確保できるような仕組みを構築していく。

取組の成果（キ）

地域スポーツクラブが中学生の部活動の受皿となった場合に優先的に場所確保するために市が総合体育館と学校体育施設の予約を年間で押さえることで、活動時間と場所を確保することができた。年間予約により、急な場所の変更や確保の心配が減り、事前に活動計画を立てやすくなった。また、これにより、生徒たちは継続的にスポーツに取り組むことができ、地域スポーツクラブは安定して活動でき、中学生も継続的にスポーツに取り組める環境を整備することができた。

今後の課題と対応方針

- ・今後の課題としては、地域スポーツクラブ（地域運動部活動）が増えた場合に普段、総合体育館又は学校体育施設を利用している一般団体の活動の場がなくなってしまう。
- ・特に利用頻度の高い時間帯や人気の施設が年間予約で埋まってしまうと、他の団体や個人が施設を利用できる機会が減少し、不満の声が上がる可能性があり、対策が必要となってくる。
- ・そのためには、普段一般団体に開放していない時間帯を利用して、地域スポーツクラブ（地域運動部活動）を運営していくことが求められる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・令和5年度より総合型地域スポーツクラブOZUスポに地域ダンスクラブの運営委託を行っているが、令和6年度より新たに「地域バドミントンクラブ」を創設し、ダンスクラブと併せて2クラブの運営委託を行っており、主に講師派遣や生徒の出欠確認及び総合調整を担っている。

・今年度から受益者負担1,000円/月を徴収することで将来、運営団体が継続的な地域運動部活動の運営が可能か検証を行った。また、地域運動部活動に参加している生徒の保護者に対しても受益者負担のアンケートを実施することで適正な受益者負担の額の検証を行い、次年度における地域部活動の参考とした。

・夏と冬2回、学校部活動の顧問にヒアリングを行うことで、学校における部活動のあり方と今後の方向性の模索等を行った。

●成果の評価

令和6年度から地域部活動受益者負担として、月1,000円を徴収することで運営団体の活動資金の構造を組み立てることができた。しかし、現状の部費では、講師の謝礼金等を全て賄うことが難しいことから、次年度以降においても部費の適正価格の検証を行う必要がある。今後、生活困窮家庭の生徒が入部した場合において、減免等の制度設計を構築していかなければならない。

また、学校部活動の顧問にヒアリングを行うことで将来廃部予定のある部活動について、地域移行（展開）できる可能性を模索することができた。ただ、地域移行（展開）できる団体や指導者を増やすことが急務であり、大阪府が立ち上げた新たな人材バンク等を活かしながら地域移行（展開）を推進していくことが求められる。

●今後に向けて

地域スポーツ団体に対し、地域運動部活動として活動する場合の支援策を協議し、生徒が活動できる場を増やせるよう提案していく。

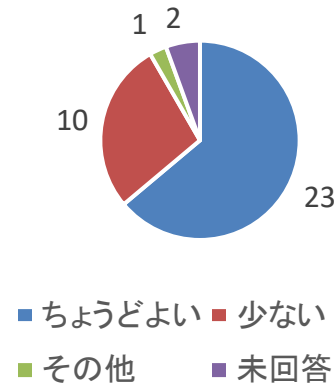
中学校部活動は競技ごとに今後の運営方法について、単独、合同、拠点、地域運動部活動のいずれかを選択。

教育委員会でも、それぞれの運営方法について、どのようなサポートが必要か校長や顧問を交えて協議を進めており、教師や生徒にとって活動しやすい方法を模索していく。

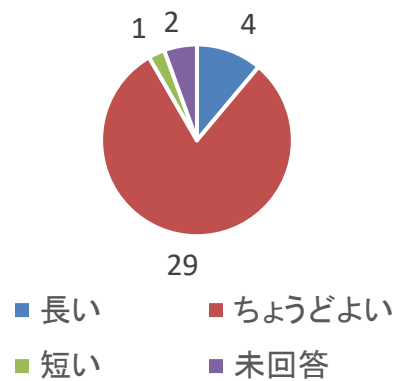
地域運動部活動アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

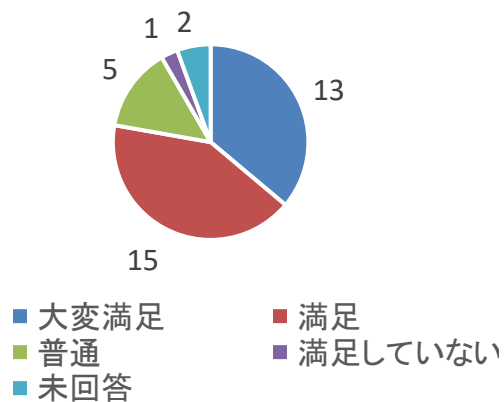
Q.現在の週1回のクラブ活動についてどう思いますか？



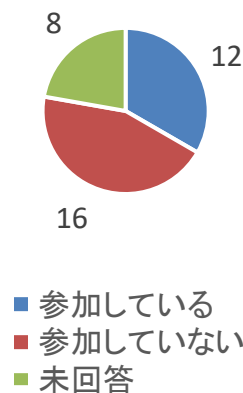
Q.活動時間（2・3時間）についてどう思いますか？



Q.現在の地域クラブ活動への満足度をお聞きますか？



Q.地域クラブ以外の活動に参加していますか？



●参加者の声

中学1年生（バドミントン）

普段かかわることのなかった、他校の先生などとも関わることができて楽しいです。バドミントンは、あまり体験したことがないスポーツだったのですが、自分の身長と手足のしなやかさを活かして、強いスマッシュなどが打てるようになると、とても嬉しく思えます。

先生たちも親身になって教えてくれていて、分からないところなどは、とことん教えてくれるので、相談もしやすいです。本当に入って良かったなと思いました。

中学2年生（ダンス）

1年生の時から参加させていただいています。

日に日にレベルが上がっていることを実感し、とても嬉しいし、楽しいです。

これからも大会に向けてがんばります。

中学2年生（ダンス）

新しくできた友達もいるし、大会にも出れたので、貴重な体験ができてよかった。

久米田高校とのダンス体験会もあったり、たくさんの経験ができる部活動と思いました。

2.実証内容と成果③

体験会資料・地域運動部活動アンケート結果

中学1年生に向けて地域運動部活動の体験会を実施

バドミントンクラブ体験会：参加者2名

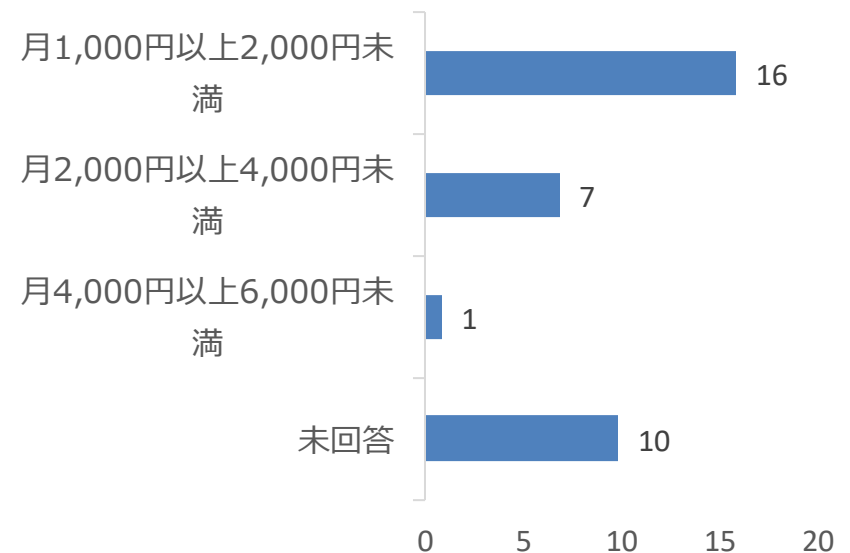
ダンスクラブ体験会：参加9名

地域運動部活動に参加している生徒の保護者36名に受益者負担のアンケートを実施し、月1,000円以上2,000円未満が16名と多数を占めることとなった。



【生徒への体験会チラシ】

受益者負担



【地域運動部活動アンケート結果】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【全日本小中学生ダンスコンクール】



【久米田高校によるワークショップ】



【地域バドミントンクラブ】



【地域バドミントンクラブ体験会】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年

合同部活動の実績づくりと地域移行への
フロー、仕組みづくり

- ①生徒のニーズ（アンケート）
- ②「合同ゆる部活動」の実施
- ③教職員・保護者への啓発
- ④スポーツ指導員人材バンク
制度設立

令和3年

関係者への
ヒアリング

検討委員会設
置、検討開始

8月、第1回検討委員会を開催し、地域
への移行に対する学校からの視点や地域の受
け皿としての可能性と泉大津市としての部活
動のあり方を検討した。

1月、第2回検討委員会後、小学6年生
向けならびに教員向けのアンケート調査の実
施を実施した。

2月、第3回検討委員会にて、「合同部活
動」の活動実施について検討を行った。

令和4年

中学校の既存運動部の実践研究

- ①研修会の実施
- ②体験教室の実施
- ③外部コーチの配置と部活動のICT化の
実証研究
- ④既存部活動の合同部活動実施への間
取り調査

令和4年

合同部活動等
の推進に関す
る実証

関係者に対する
研修会等の開
催

10月、「校長のリーダーシップと運動部活動」
研修会を実施し、大阪府を含む阪神間の11
自治体の学校教育・社会教育担当者、校長
や企業、NPO団体など61名が参加。
参加者と現状の情報共有と意見交換を行っ
た。

令和5年

4月、新たな地域クラブ活動（地域運動部
活動）として、競技志向の活動だけでなく生
徒の志向等に適したプログラムとして、ダンス
クラブを立上げ、運営を総合型地域スポーツク
ラブに委託し、地域が運営する部活動のモデル
ケースとして、課題の整理と持続的な運営の
実証事業として活動をスタートした。

令和5年

地域クラブ活動
の開始

令和6年

地域クラブ活動
の種目増設

令和6年

新たな地域クラブ（地域運動部活動）とし
てバドミントンクラブを創設。

また、令和6年度から地域スポーツクラブ
（運動部活動）に参加している生徒から部
費を徴収するなど、運営団体が持続可能な運
営方法等の検討を行った。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降～
泉大津市教育委員会	各部活等の活動広報 保護者等へ周知 地域運動部活動運営支援 学校との協議、調整		
学校	拠点校、合同部活動開始 部活動指導員配置	廃部予定の部活動を地域移行（展開） 拠点校、合同部活動に整理	
総合型地域スポーツクラブ	学校にない部活動を運営、講師派遣、教室運営		
	地域ダンスクラブ 地域バドミントンクラブ (休日活動)	地域ダンスクラブ 地域バドミントンクラブ (休日・平日活動)	
スポーツ協会等	学校部活動からの地域移行（展開）先の受皿を創出		
	スポーツ協会等に加盟している各連盟の活動内に中学生の活動の機会を創出		

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大阪府 守口市

自治体名：大阪府守口市

担当課名：学校教育課

電話番号：06-6995-3151

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	12.71 km ²
人口	140,923 人
公立中学校数	8 校
公立中学校生徒数	2,711 人
部活動数	117 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

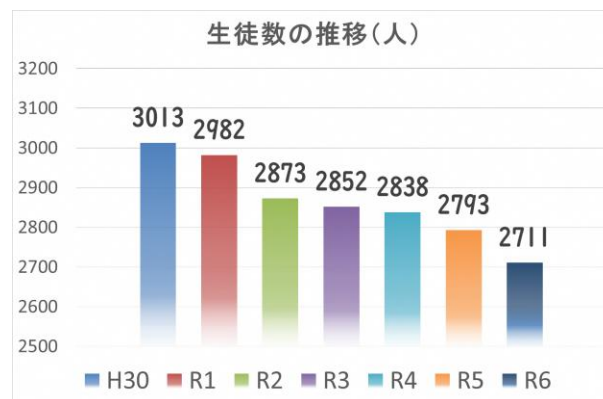
本市では、生徒数が減少傾向であるものの、部活動数はほぼ横ばいで推移している。このことから、部活動によっては人数の確保が難しい状況や、生徒数の減少に伴う教職員数の減少、競技歴・指導経験のある顧問の確保が難しいこと等により運営体制を整えることが困難な状況となり、部活動数を精査している学校もある。

これらのことから、令和3年度より「地域運動部活動推進事業」として実証研究を開始し、以降、関係団体代表者等を構成員とした「守口市地域運動部活動推進事業における部活動検討委員会」（以下、「市部活動検討委員会」）の設置、拠点校や運営団体の拡充、2

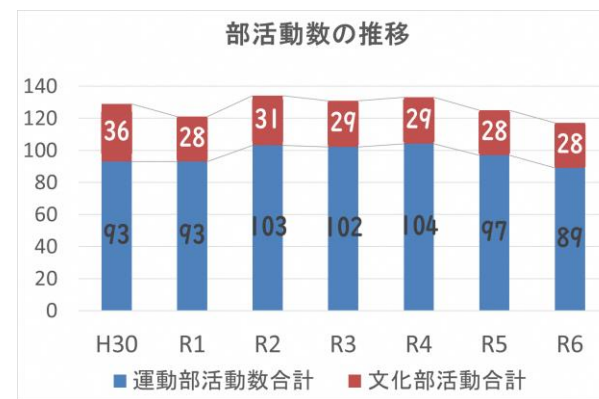
校による合同実施等の取組みを進めてきた。

これまでの成果としては、参加している生徒の満足度が高く、また顧問の負担軽減にもつながっていること、市部活動検討委員会をとおりして関係団体と目的・目標の共通理解を図りつつ、学校と運営団体が定期的に打合せを行うこと等により、平日と休日の指導について連携を深められたことが挙げられる。

一方、課題は今後、受益者負担について研究する上で、保護者と運営団体の間で希望する会費等の金額に開きがあること、報酬額が支障となり、現状以上の指導者数の確保が困難になっていることである。



出典：部活動実態調査（H30～R6）

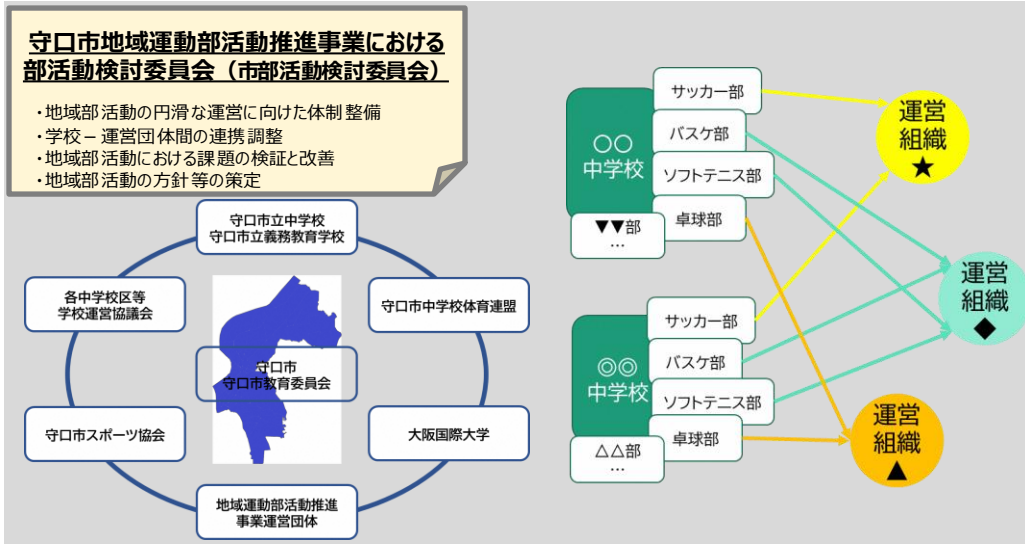


出典：部活動実態調査（H30～R6）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

- ・実証研究事業の運営（学校－運営団体間の連携調整、事務等）
- ・「市部活動検討委員会」の主催（運営及び事務）
- ・学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の推進

◎首長部局（生涯学習・スポーツ振興課）

- ・関係団体（守口市スポーツ協会）との連携調整
- ・「市部活動検討委員会」への参画

年間の事業スケジュール

令和6年4月	地域スポーツクラブ活動の開始
令和6年6月	学校で運営団体の教室開催
令和6年10月	第1回 市部活動検討委員会
令和6年12月	第2回 市部活動検討委員会
令和6年12月	学校で運営団体の教室開催
令和7年1月	第3回 市部活動検討委員会
令和7年2月	部活動に関するアンケート調査 (対象：生徒及び保護者)

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	5 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5 クラブ（8 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	33 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
サッカー部	スポーツ少年団	サッカー	月 1 回	9:00~12:00	1年:15人 2年:22人 3年:5人	4月~	八雲中	12 人	1 人 (内、兼務0人)	なし	なし
女子バスケットボール部	民間事業者	バスケットボール	月 2 回	9:00~12:00	1年:10人 2年:4人 3年:3人	4月~	さつき	5 人	1 人 (内、兼務1人)	なし	なし
男子ソフトテニス部	民間事業者	ソフトテニス	月 2 回	9:00~12:00	1年:2人 2年:9人 3年:6人	4月~	さつき	4 人	1 人 (内、兼務1人)	なし	なし
女子ソフトテニス部	民間事業者	ソフトテニス	月 2 回	9:00~12:00	1年:4人 2年:10人 3年:6人	4月~	さつき	4 人	1 人 (内、兼務1人)	なし	なし
卓球部	体育・スポーツ協会	卓球	月 4 回	9:00~12:00	1年:14人 2年:17人 3年:14人	4月~	さつき	12 人	1 人 (内、兼務0人)	なし	なし

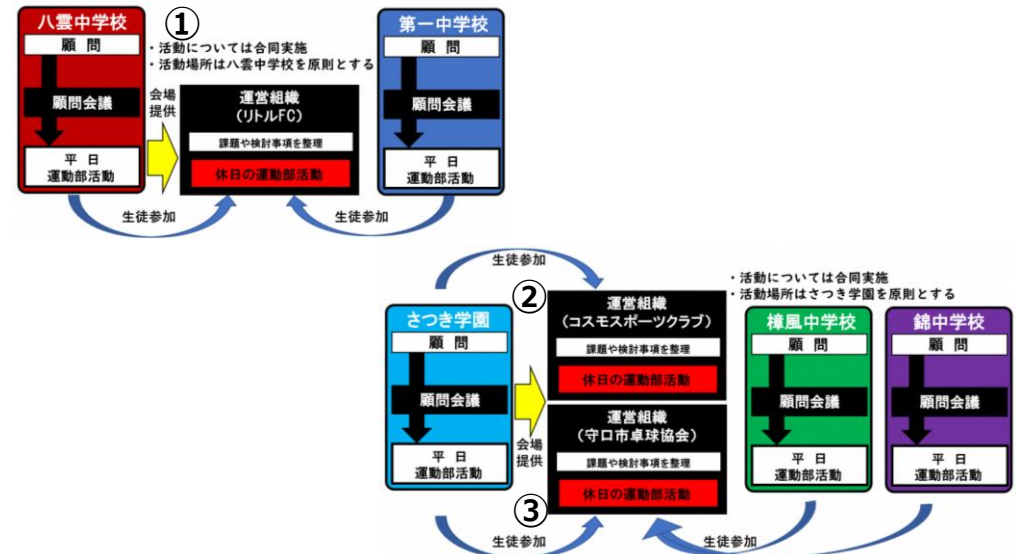
2.実証内容と成果

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	①サッカー ②バスケットボール、ソフトテニス ③卓球
運営団体名	①リトルFC ②幼児活動研究会株式会社コスモスポーツクラブ ③守口市卓球協会
期間と日数	4月～ ①月1回程度 ②月2回程度 ③月4回程度
指導者の主な属性	①スポーツ少年団の指導者 ②民間スポーツ事業者に所属する指導者 ③体育・スポーツ協会の指導者
活動場所	①守口市立八雲中学校 ②③守口市立さつき学園
主な移動手段	徒歩または自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 指導者 ①12名 ②9名 ③12名

役割：生徒の指導(安全指導含む)、実績簿の作成等を行う

- 運営補助者 ①1名 ②1名 ③1名

役割：活動の運営、生徒や保護者への連絡、関係校との連携・調整、活動報告書の作成等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

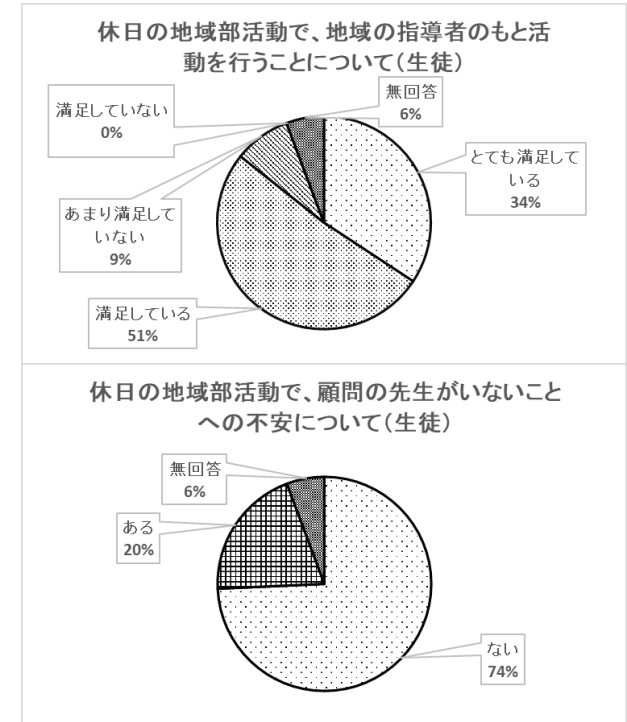
取組事項

○「市部活動検討委員会」をと
おして、各運営団体における持
続可能な運営に向けた組織体
制の整備を進める。

取組の成果

○「市部活動検討委員会」を年間3回開催し、関係者間で
取組みの状況を確認するとともに、課題を共有しつつ、解消
に向けた方策を検討することができた。

○参加した中学生35人を対象としたアンケートの結果、回答
者の85%が「地域の指導者のもとで活動を行うことについてどう
思いますか」の質問に対して「満足している」、「とても満足して
いる」と回答した。また他の質問項目「休日の地域部活動で、
顧問の先生がいないことについて不安はありますか」では、回答
者の74%が「ない」と回答しており、参加者の満足や不安の軽
減につながっている。



出典：令和6年度 部活動改革に関するアンケート調査（守口市）

今後の課題と対応方針

○運営団体による工夫等により、活動が実施できない状況には至らなかったものの、地域スポーツクラブ活動と学校施設の目的外利用による他団体の活動の実施場所がバッティングしていることが、活動当日になって発覚するアクシデントが生じた。本市では学校部活動の他に、地域スポーツクラブ活動、保護者や教職員を指導者とする任意団体による活動、学校施設の目的外利用を行う他団体による活動等、学校施設を利用して行われる活動が様々にあることから、それぞれの活動場所や時間について一元的に把握する等により、同様のトラブルを未然に防ぐ方策を検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

○「市部活動検討委員会」をとおしてリトルFC、コスモスポーツクラブ、市スポーツ協会と連携し、指導者を確保する。

取組の成果（イ）

○運営団体により、年度更新に係る指導者の入れ替わり等、量の確保に関して懸念があったものの、各団体における募集や若手指導者の積極配置により、活動に必要な指導者の数を確保することができた。

令和6年度 守口市「地域運動部活動推進事業」における地域スポーツクラブ活動の指導者数（人）

クラブ	R6計画	R7.1.31時点
サッカー部	10	12
女子バスケットボール部	3	5
男子ソフトテニス部	4	4
女子ソフトテニス部	4	4
卓球部	11	12

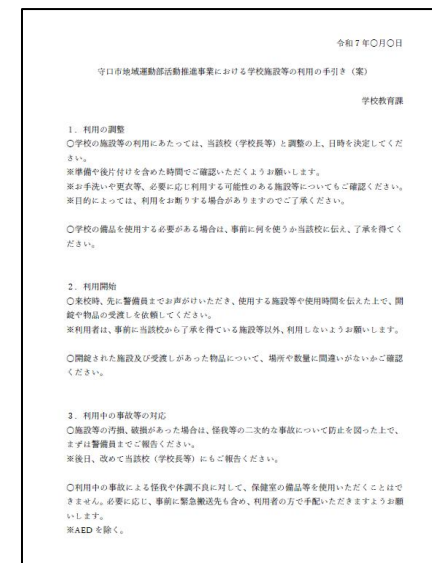
令和7年1月31日 学校教育課 作成
(参考：令和6年度 指導者一覧)

取組事項（ウ）

○「市部活動検討委員会」をとおしてリトルFC、コスモスポーツクラブ、市スポーツ協会、大学と連携し、各運営団体における指導者を対象とした研修教材等の充実を図る。

取組の成果（ウ）

○「市部活動検討委員会」をとおして運営団体から聞き取った意見を踏まえ、「守口市地域運動部活動推進事業における学校施設の利用等の手引き」を作成し、当該資料の活用による指導者への研修の実施等について共通理解を図ることができた。



出典：令和6年度 第3回部活動検討委員会 資料

今後の課題と対応方針

○指導者の質の保障・量の確保にあたって、運営団体からの意見（報酬額が支障となり、現状以上の指導者数の確保が困難であることから、現在の額では今後の継続が難しい）を踏まえ、受益者負担による持続可能な運営に向けた会費等の金額について検討を進めてきた。今後は、関係者の理解促進を図り、実際に会費等の徴収を行いつつ、生徒や教職員だけでなく、運営団体にとっても持続可能な収支のバランス等について研究を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○「市部活動検討委員会」をとおして、持続可能な運営に向け必要となる経費の整理を図るとともに、各運営団体における会費の適切な設定・徴収方法について検討する。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

以下①～③から、イニシャルコストは生じない。

- ①地域スポーツクラブ活動では、既に学校部活動で実施している種目について学校の施設、備品等を使用して活動するため、新たな準備は不要
- ②各運営団体の指導者が活動の指導を行うため、新たな指導者の任用等は不要
- ③大会等に参加しないため、登録料等は不要

■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金（1,100～5,000円/時間）
→316千～540千円/クラブ
- ・指導者交通費（0～680円/回）
→0～24千円/クラブ
- ・生徒保険料（800円/年）
→16千円/クラブ

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

- ・クラブには20人の参加を想定
- ・運営団体や競技により、受益者負担額は異なる

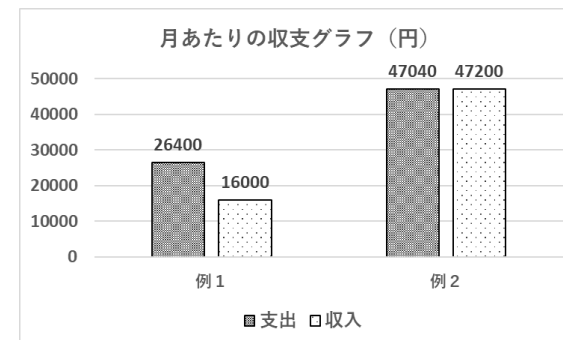
1か月あたり	例1	例2
① 謝金	1,100円×3時間×2人×4回=26,400円	5,000円×3時間×1人×3回=45,000円
② 交通費	-	680円×3回=2,040円
想定される会費	800円/1人	2,360円/1人

※生徒保険料（800円/年）は別途徴収

令和7年1月31日 学校教育課 作成
 （参考：令和6年度 第2回 守口市地域運動部活動推進事業における部活動検討委員会 資料）

収支バランス

- ・例1においては月あたり10,400円の収入不足を補う取組が必要。
- ・例2では、160円の収入超過について、積立により消耗品の購入等にあてる。



左の表をもとに作成
 ※支出=①+②
 収入= 想定される会費×20人

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



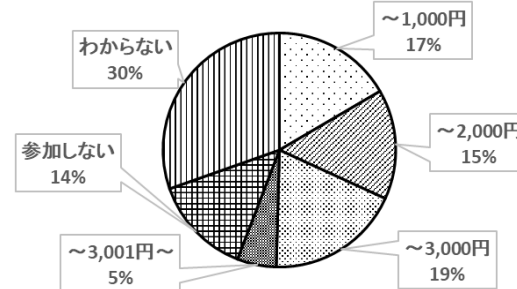
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

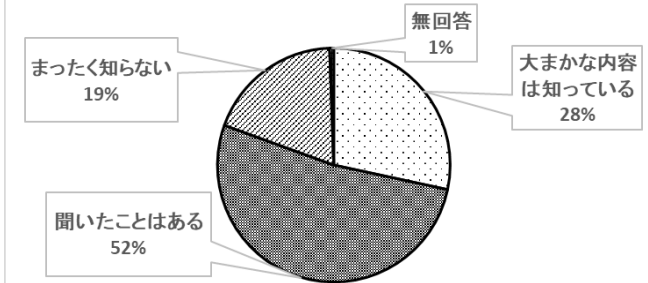
○守口市の部活動等に係る取組みを紹介した資料の周知とともに、市立中学校等に在籍する中学生の保護者349人を対象としたアンケートを実施した結果、「今後、休日等の活動が地域に移行され、会費制になった場合、いくらまでなら参加しますか」の質問に対して回答者の17%が1,000円まで、15%が2,000円まで、19%が3,000円まで、5%が3,000円以上と回答し、会費を払って生徒を参加させる保護者の割合は併せて56%と半数を超えた。また、回答者の30%が「わからない」、14%が「参加しない」と回答していることや、他の質問項目「全国的に進められている、学校部活動の地域移行に向けた取組みについて知っていますか」において回答者の71%が「聞いたことはある」、「まったく知らない」と回答していることから、引き続き、取組みについて理解促進を図ることが必要であると再認識することができた。

休日等の活動が地域に移行され、会費制になった場合、いくらまでなら参加するか(保護者)



出典：令和6年度 部活動改革に関するアンケート調査(守口市)

全国的に進められている、部活動の地域移行に向けた取組みについて知っているか(保護者)



今後の課題と対応方針

○地域スポーツクラブ活動に参加している生徒やその保護者については、今後の取組みの中で説明会を開催しつつ、実際に会費等の徴収を行うことをとおして理解を進めていく。また一方で、会費等が低廉である方が参加する割合は高くなると考えられることから、費用負担の軽減につながる取組みも並行して検討し、実施する必要がある。

○地域スポーツクラブ活動に参加していない生徒やその保護者についても、学校部活動以外の活動機会の周知等、現状の取組みとともに他の理解促進の方策を検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

資料

○これまで学校部活動として休日等に行ってきた活動が、守口市では学校部活動以外に移行していくことについて、市の学習用e-ポータル、学校-保護者間連絡ツールを用いて生徒や保護者に周知

出典：令和6年度 部活動改革に関するアンケート調査（守口市）

別添



守口市の部活動等について

令和7年1月27日
作成：学校教育課

学校の部活動

- 活動は平日の1時間、午後5時までです。
- 休日は原則、活動しません。
- ※「守口市立中学校に係る部活動の方針」の範囲内で、活動を延長する場合があります。

〈学校部活動の活動時間イメージ〉

	平日	休日
部活動の「標準活動時間」	1時間まで	なし

※少なくとも月～金のうち1日は休養日



必要がある場合、顧問が延長を申請

	平日	休日
「守口市立中学校に係る部活動の方針」	2時間まで	3時間まで

※少なくとも月～金のうち1日、土日の1日は休養日



学校部活動以外

子どもがスポーツ・文化活動に親しむ機会の確保に向けた取組を進めています。

地域運動部活動推進事業（R3～）

- 部活動の地域移行に向けた実践研究
- 地域の団体や民間事業者等と連携



【実施部活動一覧】（R6現在）

- ・サッカー部：第一中×八雲中(リトルFC)
- ・女子バスケ部：さつき学園(コスモ)
- ・男子ソフトテニス部：さつき学園(コスモ)
- ・女子ソフトテニス部：さつき学園(コスモ)
- ・卓球部：さつき学園×錦中×樟風中(市卓球協会)

R5成果報告書：https://www.mext.go.jp/sports/content/20240917-spt_ori para01-000028782_02.pdf

学校部活動以外で中学生も参加できる！ 地域のスポーツ・文化活動団体

- 市から地域のスポーツ・文化活動団体に協力を依頼
→協力の申し出があった団体について、学校を通じてお知らせ（R6現在で11団体）

<https://www.city.moriguchi.osaka.jp/material/files/group/52/sportsdantai2.pdf>

その他の活動状況

- 保護者の方や先生等がつくったスポーツ・文化活動団体が、学校等で活動を実施（R6現在で10団体）



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 地域スポーツクラブ活動について、年間を通じて各クラブで概ね月1～4回の頻度で開催できた。
- 一方で、大会等への参加は学校部活動として行っていることや、天候の影響、各運営団体の地域スポーツクラブ活動の指導以外の活動の影響もあり、実施回数が少なくなったクラブもあった。
- 現状の収支構造では指導の継続が難しい状況を踏まえ、令和6年度は、運営団体が学校施設を活用した教室を開催し、会費を徴収する試みを2回行った。
- 今後、受益者負担を求める形について研究するにあたっては、実施頻度や参加人数、実施可能な負担軽減の取組みを踏まえ、運営団体ごとに適切な徴収方法を検討する必要がある。
- 本市で部活動の「標準活動時間」（活動を平日の1時間、午後5時までとする）を設定したことで、地域スポーツクラブ活動以外にも任意団体による活動が行われ、学校施設の目的外使用を行う他団体の活動と併せて活動時間や場所を整理しながら取組みを進める必要性が生じている。

●成果の評価

- 本市では「市部活動検討委員会」を軸とした運営団体との連携により、これまで指導者の質の保障とともに量が確保されてきている。また定期的な状況の共有や課題解消に向けた協議等を行ってきた結果が、地域スポーツクラブ活動に参加した中学生の満足度の高さや不安の軽減につながっている。
- 今後の継続に向けては生徒や教職員とともに、運営団体にとっても望ましい持続可能な運営体制の構築が必須であり、そのためには地域スポーツクラブ活動において会費等を徴収することの研究が必要である。
- 保護者のアンケート結果より、会費の検討にあたっては参加に係る費用負担の軽減につながる取組みにより、金額を低廉に抑えることが求められる。

●今後に向けて

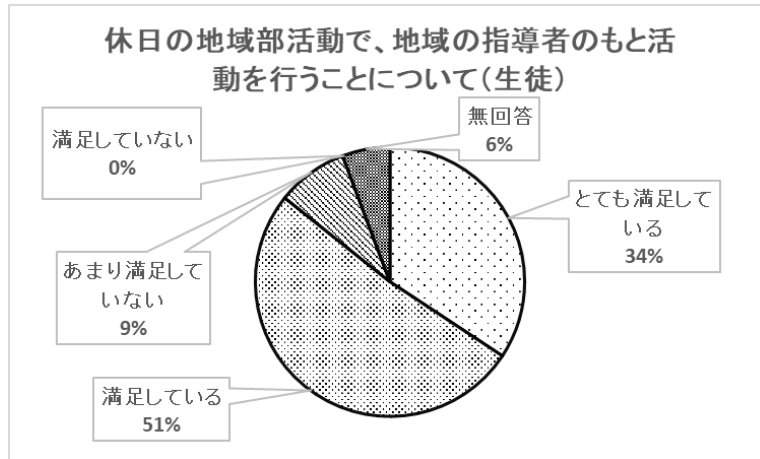
- 今後の持続可能な運営に向けては、改めて活動の回数や質を担保しつつ、以下①～④を実施する。
- ①地域スポーツクラブ活動への参加に係る費用負担の軽減のための各運営団体による取組みの検討・試行
 - ②①の取組みを踏まえた運営団体ごとの低廉な会費等の検討
 - ③説明会の開催等による受益者負担を含めた生徒、保護者の理解促進
 - ④会費の徴収等をととした持続可能な運営体制の構築による指導者の確保

アンケート結果・参加者の声

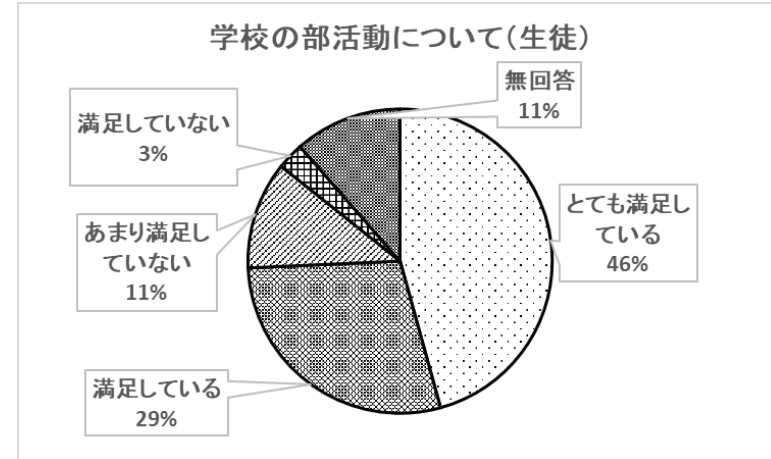
出典：令和6年度 部活動改革に関するアンケート調査（守口市）

●アンケート結果

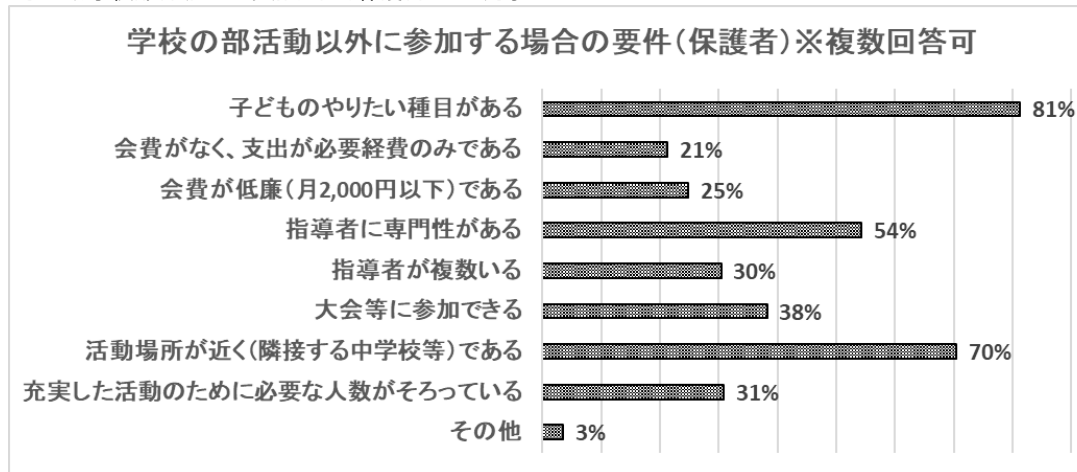
※参加生徒35人対象



※参加生徒35人対象



※子どもが学校部活動のみに参加している保護者230人対象



●参加者の声

中学1年生(義務教育学校7年生)

- ・細かいところまで教えてくれる
- ・他校の人と活動するのは楽しい
- ・いま悩んでることを解決するための練習をしてくれる
- ・参加してちゃんと実力がついてきた

中学2年生(義務教育学校8年生)

- ・コーチが充実している
- ・もともと習っていたチームで部活とは違う練習ができる
- ・アドバイスが的確
- ・いろんな人の教え方が知れる

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【バスケットボール：コスモスポーツクラブ】



【ソフトテニス：コスモスポーツクラブ】



【サッカー：リトルFC】



【卓球：守口市卓球協会】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年

受け皿団体や
指導者の選定、
拠点校の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者
への説明

地域クラブ活動
の開始

令和4年

協議会設置、
検討開始

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー：学校

- ①八雲中学校、②さつき学園、③第一中学校、
- ④樟風中学校、⑤錦中学校

●経過

- ・令和3年度…①及び②を拠点校とする
- ・令和4年度…③を拠点校に追加する
- ・令和5年度…④及び⑤を拠点校に追加する

●実施にあたって生じた課題

活動中の負傷や生徒指導対応も含めた連携についてどのように図っていくか、生徒やその保護者の理解をどのように得るのか不安があり、また部活動の指導を希望する教職員もいる中、学校としても慎重になっていた。

●実施内容、工夫した点等

顧問が専門的な指導について課題を感じている部活動について、教育委員会を仲介として運営団体と打合せを行い、不安解消に努めた。また保護者説明会に教育委員会も関わり、学校とともに生徒や保護者の理解促進を図った。

●ステークホルダー：民間事業者

コスモスポーツクラブ

●経過

・令和3年度…学校教育に関わって市に連携の打診があり、学校ニーズを踏まえた検討により運営団体となる

●実施にあたって生じた課題

当該事業者においても研究的な取組みであったため、指導者の確保の観点から、対象とする種目や部活動数について調整しながら進める必要があった。

●実施内容、工夫した点等

女子バスケットボール部及び男女ソフトテニス部の指導を行っている。企業としても安全確保や指導の質を高める取組み等を進めているが、今後、指導者の量の確保について進めるためには謝金の在り方の見直しや指導体制に係る工夫が必要。

●ステークホルダー：守口市スポーツ協会

市サッカー連盟、市卓球協会

●経過

・令和3年度…市サッカー連盟に属するリトルFCを運営団体とする

・令和4年度…市卓球協会を運営団体とする

●実施にあたって生じた課題

守口市スポーツ協会では多数の所属団体があり、様々な部活動について連携が可能であるものの、実施については学校ニーズを起点にしてきたことから、教育委員会と拠点校で実施部活動を決定し、連携を進めた。

●実施内容、工夫した点等

サッカー部についてリトルFCが、卓球部について市卓球協会が指導を行っている。資格や経験を有する指導者も所属しており、指導が円滑に進んでいる。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)
守口市 (生涯学習・スポーツ振興課) 守口市教育委員会 (学校教育課)	市部活動検討委員会の開催 (年3~5回)			
			事業実施部活動 以外の方針検討	
			施設の効率的運用を検討	
		子どもの活動機会の確保に向けた団体の掘り起こし		
学校		部活動の活動時間を制限 (平日1時間のみ、午後5時まで)		
		子どもの活動機会の確保につながる任意団体の活動場所を提供		
運営団体		参加者の費用負担軽減に向けた取組みの検討・試行		
			会費を徴収して自己運営	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大阪府 枚方市

自治体名：大阪府枚方市

担当課名：教育指導課

電話番号：050-7105-8052

1.自治体の基本情報

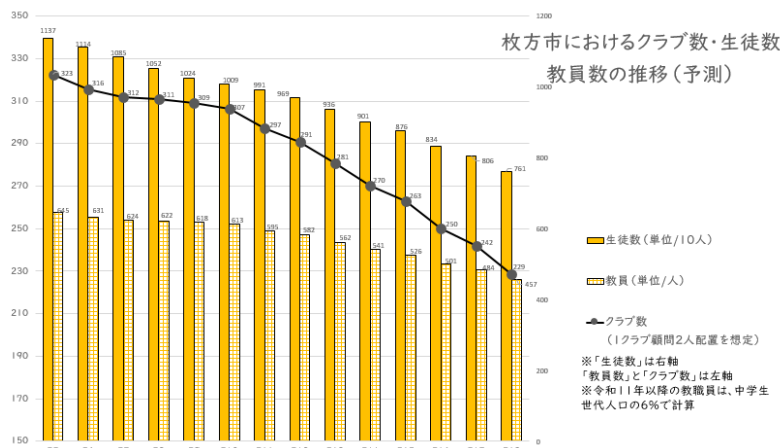
基本情報

面積	総面積65.12 km ²
人口	393,199 人
公立中学校数	19 校
公立中学校生徒数	9,916 人
部活動数	274 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本市では19中学校で274の運動部活動が活動している。しかし、昨今の少子化に伴い、合同チームも徐々に増えてきており、また、教員数も減少しているため、ここ数年複数校で部活動数を減らさざるを得ない学校が出てきている状況となっている。改革推進期間である3年間で、本市の実情に沿った「ひらかたモデル」としての部活動の方針の改訂に向けて、枚方市中学校部活動の在り方懇話会や庁内委員会において、協議・検討を進めている。令和5年度には大学と連携してのクラブ活動を、令和6年度には、中学校と学校外の公共施設での地

域クラブの活動を行い、課題の検証をしている。また、長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。今後、地域移行にあたり部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要であり、同時に地域移行推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。活動場所の確保も同様に必要となってくる。また、持続可能な体制とするために受益者負担の検討も行っていく必要がある。



出典：枚方市中学校部活動の在り方懇話会資料

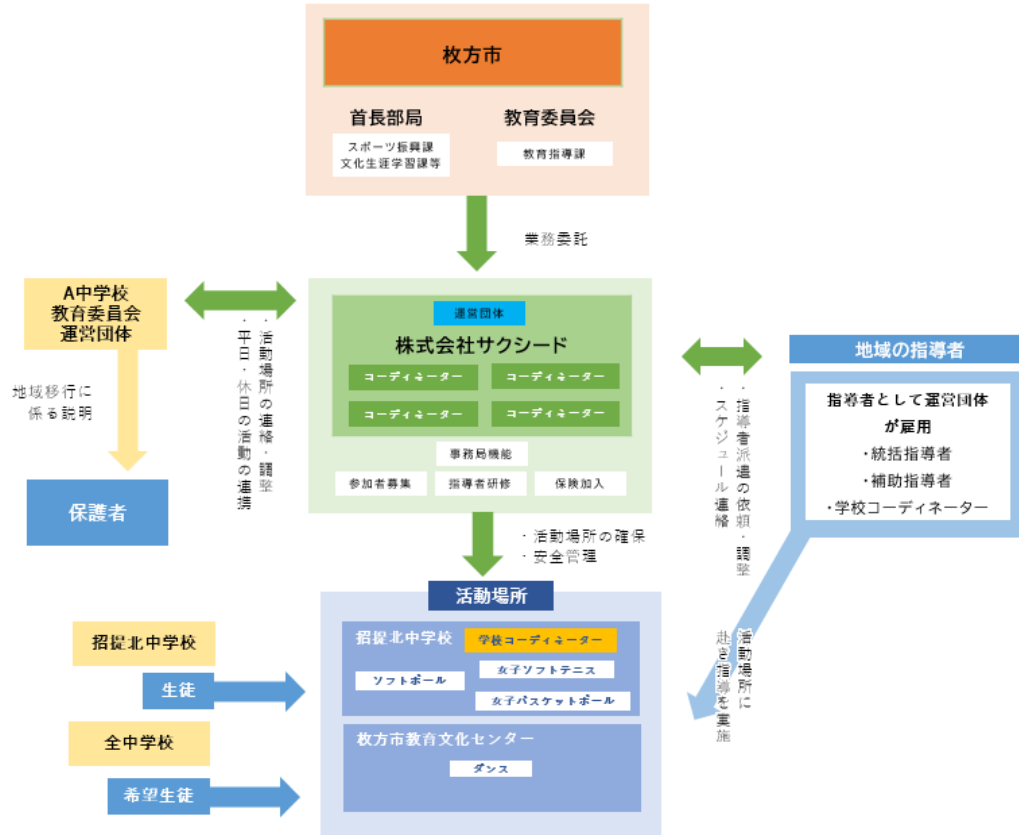
【課題】

現在の枚方市の年齢構成を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・教育指導課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について

◎首長部局

・スポーツ振興課…中学生の地域スポーツ活動の環境整備
 ・文化生涯学習課…中学生の地域文化・芸術活動の環境整備 他

年間の事業スケジュール

令和6年6月	第1回懇話会の開催
令和6年8月	第2回懇話会の開催
令和6年9月	試行実施の開始
令和6年11月	第3回懇話会の開催
令和6年12月	クラブ活動関係者へのアンケート調査（第1次）
令和7年3月	クラブ活動関係者へのアンケート調査（第2次）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校（ダンスは10校から参加）	実施した地域クラブ総数	4クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）	3クラブ（3部活）	
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）	1クラブ	
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
招提北女子テニスクラブ	民間企業	女子テニス	月4回程度	土曜日	1年14人 2年3人	9月～3月	招提北中学校	3人（内、兼務1人）	6人（内、兼務6人）	なし	中体連：部活動
招提北女子バスケットボールクラブ	民間企業	女子バスケットボール	月4回程度	土曜日	1年7人 2年6人	9月～3月	招提北中学校	3人（内、兼務1人）	6人（内、兼務6人）	なし	中体連：部活動
招提北ソフトボールクラブ	民間企業	ソフトボール	月4回程度	土曜日	1年5人 2年2人	9月～3月	招提北中学校	3人（内、兼務1人）	6人（内、兼務6人）	なし	中体連：部活動
ひらかたダンスクラブ	民間企業	ダンス（新）	8回1クール（うち1回体験会）を2クール	土曜日 13:30～16:30	1年9人 2年4人	9月～3月	教育文化センター	2人	6人（内、兼務6人）	1クール（7回）で3,800円	大会なし

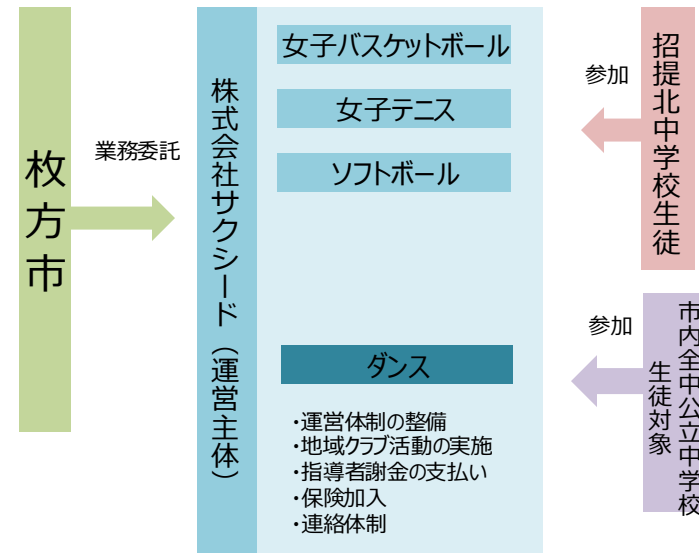
2.実証内容と成果

主な取組例

● 枚方市スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	女子バスケットボール・女子ソフトテニス・ソフトボール・ダンス
運営団体名	株式会社サクシード
期間と日数	9月30日～3月31日 女子バスケットボール・女子ソフトテニス・ソフトボール:月4回程度 ダンス:8回/1クールを2回(計16回)
指導者の主な属性	クラブチーム指導者、元中学校教員、学生など
活動場所	枚方市立招提北中学校 枚方市教育文化センター
主な移動手段	自転車・徒歩・自動車
1人あたりの参加会費等(年額)	女子バスケットボール・女子ソフトテニス・ソフトボール:参加費なし ダンス:1クールあたり3,800円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり:800円/年 指導者1人あたり:1,850円/年

● 運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括コーディネーター
役割: クラブ運営に係るコーディネートを行う
- 学校コーディネーター 学校に1名(活動時)
役割: 活動における管理者として、学校、保護者との連携・安全管理を行う
- 統括指導者 1名
役割: 活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 補助指導者 1名
役割: 活動において、主任指導者の補助として生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

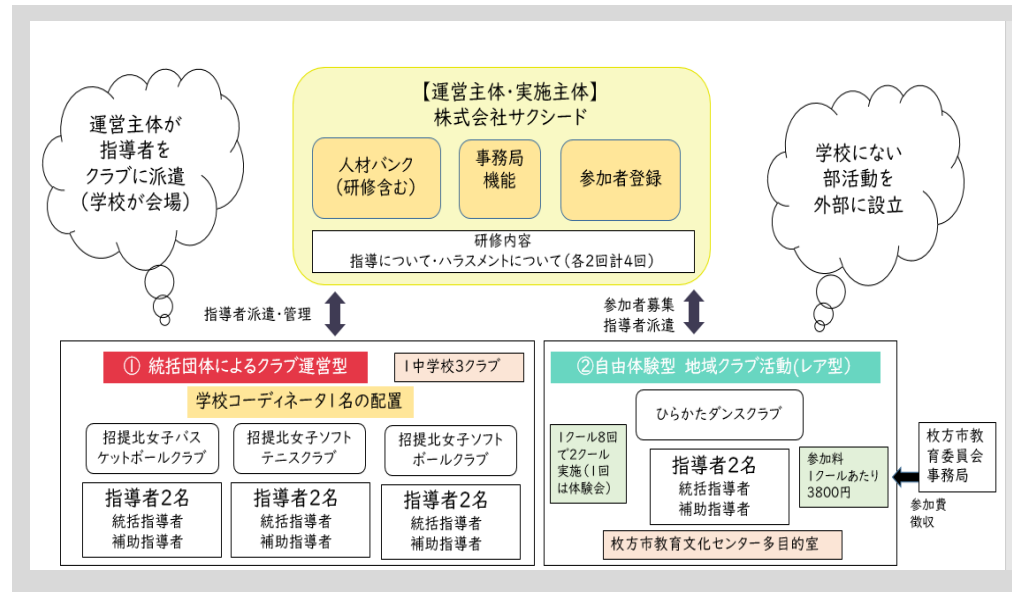
統括団体に以下のことを委託して取り組みを行う。

- ・4クラブの事務局機能
- ・4クラブの指導者の発掘・派遣・研修
- ・4クラブの参加者への連絡・参加の意向確認
- ・4クラブの関係者（参加者・保護者等）に対するアンケートによるリサーチ業務

統括団体には上記項目を業務として委託することにより、次年度以降のひらかたモデルの基盤とする。

取組の成果

- 運営団体を企業に任せたことによって、指導者確保やクラブの管理などはスムーズに行うことができた。
- 指導者の選定や研修なども運営団体が行った。責任の所在も一定運営団体にあるので、安心して任せることができた。
- web会議などで定期的に打合せを行った。
- 今年度の成果を踏まえて、来年度の実証への足掛かりができた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・事務局機能として、クラブの運営・指導者等の管理を行う。

【学校コーディネーター】

- ・クラブ活動において、参加者との連絡調整、会場の安全管理、学校との連絡、指導者の補助を行う。

今後の課題と対応方針

- 公的支援の対象とする地域クラブの基準がないため、要件や基準等の検討を行う必要があると考える。
- 汎用的に活用できる連絡ツール（生徒・保護者・コーディネーター・指導者・平日の指導者）の整備
- 持続可能なクラブ運営ができる運営主体の発掘

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

本市では、地域スポーツクラブへ派遣する指導者の人材バンクを保有していないことから、今年度は民間事業者による業務委託することで、事業者の知見を生かした指導者の発掘及び研修による指導者の質の向上をめざす。

指導者等の人数

11名

指導者の年齢構成

10代	3名
20代	2名
30代	1名
40代	3名
50代	3名
60代以上	1名

登録者属性

職業	
・会社員	8名
・学生	3名

指導者募集を知った理由
 ・企業のWEBサイト
 ・求人雑誌・サイト

種目

- ・バスケットボール
- ・ソフトテニス
- ・ソフトボール
- ・ダンス

資格有無

- ・公認ソフトボールコーチ
- ・メンタルヘルスマネジメントなど

取組の成果

- ・民間事業者によって、広く候補者を募集し、多数の希望者の中から、指導者を選定できたため、クラブ指導の実績がある指導者や競技経験が豊富な指導者、また元教職員など実績のある指導者を確保することができた。
- ・契約締結後1月ほどで11人の指導者を確保できた。
- ・研修内容も充実していて、生徒や保護者の指導への満足度も高かった。
- ・指導者を確保することで、教員の業務改善にも一定の成果があった。

対象：該当部活動顧問 計6人

「地域クラブ活動が実施されて業務負担が軽減されましたか」



■大いに軽減された ■軽減された
 ■あまり軽減されていない ■軽減されていない

出典：枚方市教職員アンケート

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・対象：各種目指導者・学校コーディネーター
 - ・工夫：一方的な講義にならないように、対話型にしたこと
- 【指導に関する研修】
- ・目的：学校や指導の実態について理解することを目的としたもの
指導方法に関する内容、職務に関する内容、学校現場や生徒の実態
- 【コンプライアンス研修】
- ・目的：不祥事防止を目的としたもの
コンプライアンスの順守 個人情報に関する理解 ハラスメントに関する内容
- 【安全管理・緊急対応】
- ・生徒の安全を守るための対応を理解することを目的としたもの
熱中症対策 救急救命に関する内容 緊急時の対応

指導者研修の参加実績

- ・開催日：随時
 - ・形式：対面及びZOOM ・参加人数：11人
- 採用が決まり次第、対面及びZOOMで、基本は1対1で行っている。
上記3つの研修をすべて受講したうえで、指導者として、現場で指導することができる。

受講者の声

参加した地域クラブ指導者の声

「緊急時のマニュアルを提示していただき、その時の対応がイメージできた。学校コーディネーターもいるとのことだったので、安心して指導をすることができる。」

「現在の指導について学び、考え方が変わった。私が競技をしていた時は、スパルタな感じが残っていたので、指導観が変わり、目から鱗でした。」

「コンプライアンスの順守、個人情報に関する理解、ハラスメントに関する内容など、指導者として留意しなければならないことが思った以上に多いことがわかった。」

今後の課題と対応方針

○実証事業に参加する地域クラブで指導する者は、本研修を必須とした。人材派遣にノウハウのある企業での研修のため、内容も充実しており、参加者や保護者の多くが指導者に満足しているという回答を得ている。これを、他の団体や自治体ですとなった時に、このノウハウを生かしながら充実した研修を行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 様々な分野から意見徴収をするため、枚方市中学校部活動の在り方懇話会を3回開催。
- 学校と連携して進めていくため、中学校校長会において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。
- 株式会社サクシードが運営団体となり、教育委員会と連携してクラブ活動を展開した。

取組の成果

- 中学校校長会に説明し、学校の協力を求めることで、市内中学校の全ての生徒に事前周知や募集チラシの配布を行う機会を得た。
- 各クラブが活動するときは、指導者が競技種目の指導のみに集中できるよう、会場の施設、開場や参加者の出欠確認などを行う学校コーディネーターの配置を必須とし、株式会社サクシードの統括コーディネーターとのつなぎ役としての役割を果たしている。



【学校コーディネーター】

枚方市中学校部活動の在り方懇話会

令和6年度は3回開催

メンバー

有識者3名（スポーツ1名 文化2名）
スポーツ推進委員代表 スポーツ少年団代表
文化系部活動指導協力者
小中学校校長会代表各1名 PTA代表2名
枚方市中学校体育連盟会長

今後の課題と対応方針

- 競技団体や総合型地域スポーツクラブ、民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。
- 学校コーディネーターの役割をさらに検証、ブラッシュアップして有効性の高い制度にしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

少子化の中でも、将来にわたり子どもたちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむ機会を確保するために学校内の部活動を地域スポーツクラブ活動に移行するだけでなく、学校部活動にはないスポーツ活動の中でアンケート結果が最も高かったダンスクラブを「自由体験型 地域クラブ活動（レア型）」として学校外で実施した。

活動の詳細												
参加人数	25人（2クール合計 体験のみ含む）	指導者数	2人									
属性	自由体験型 地域クラブ活動（レア型）											
具体的な内容	枚方市教育文化センター多目的室にて、8回1クール（うち1回は体験会）で2クールダンスクラブを行った。参加費は1クール3,800円とし、受益者負担とした。土曜日の13:30～16:30と1回3時間で、1クールで1曲踊れることになることをめざして実施した。											
子どもの声	<ul style="list-style-type: none"> ● わからないことを教えてくれるから良いと思います。 ● わかりやすく、やっていて楽しいと感じられました。これからも続けていきたいと思いました。 ● 来るたびにダンスの楽しさが感じられました。家でも練習しています。 ● 初心者でしたが最後の発表会では1曲踊りきることができ、クラブに入ってよかったです。 											
保護者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい振り付けを習うたびにダンスの楽しさが増していくようで、毎回楽しいかせていただきました。 ● ダンスは苦手だけど、楽しく頑張っていました。土曜日は部活があるので、日曜日の方が行きやすいです。 ● 場所が少し遠かったのもう少し近くだと通いやすくて良いと思いました。 											
運営経費	株式会社サクシードによる委託事業で行った。かかった経費は、指導者謝金・事務局費など。参加費は3,800円×13人（レギュラー参加）で49,400円		<p>ダンスクラブ参加者</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クール</th> <th>体験</th> <th>レギュラー参加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1クール</td> <td>11人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>第2クール</td> <td>14人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：枚方市教育委員会事務局作成</p>	クール	体験	レギュラー参加	第1クール	11人	6人	第2クール	14人	7人
クール	体験	レギュラー参加										
第1クール	11人	6人										
第2クール	14人	7人										

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- 参加した中学生18人を対象としたアンケートの結果、すべての回答者がダンスクラブの活動に満足していると回答した。
- また、いろいろな学校が集まって活動することについてどうですかという質問では、肯定的回答が100%で次年度の取組にも生きる結果であった。
- 保護者アンケートもすべての回答者が子どもがダンスクラブの活動に満足していると回答した。
- 受益者負担についても7回3,800円の金額にはおおむね納得が得られた。

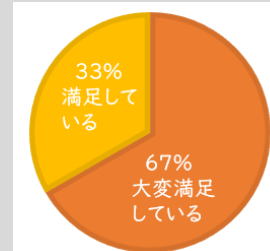
枚方市地域クラブについてのアンケート（実施期間：令和6年12月）の結果抜粋

今後の課題と対応方針

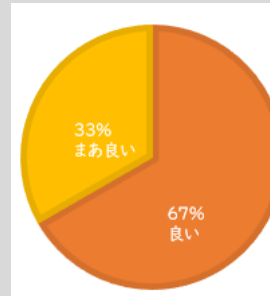
- 学校部活動の時間と重複してしまうという理由から、参加希望者が想定よりも少なかった。やってみたいクラブ活動としては、アンケートの結果から高い数値が見られたので想定外であった。また、指導内容に対しては、高い満足度が得られた。指導内容を充実させることによって、受益者負担への理解も得やすくなることがわかった。

参加者アンケート

ダンスクラブの活動に満足していますか

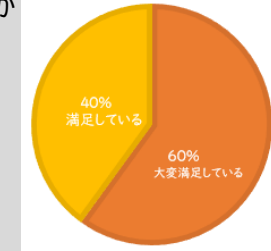


いろいろな学校の人が集まって活動することはどうですか。

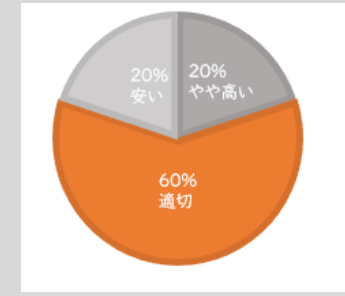


保護者アンケート

お子さまはダンスクラブの活動に満足していますか



7回の活動で3800円という参加料についてどう思われますか。



- 引き続き、受益者負担へのアンケートなどを取り、参加者、保護者のニーズを把握していく。
- 多くの学校から集まるため、連絡方法の構築に課題が残った。
- 今年度はメール等を活用したが、直前の連絡などでは課題が残った。今後、連絡に特化したツールの導入について検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○本実証事業は、企業への委託契約と一部取組みでの受益者負担という形で行った。①統括団体によるクラブ運営型は、学校部活動の土日の部分を学校から切り離し、地域クラブ活動としている。これに関しては、本年度は受益者負担を求めなかったが、指導の質に対する受益者負担の額の妥当性についての保護者アンケートを行った。②自由体験型地域部活動（レア型）については、1回あたり540円、7回で3,800円の受益者負担とし、その上で、指導の質に対する受益者負担の額の妥当性についての保護者アンケートを行った。

① 統括団体によるクラブ運営型

保護者アンケート

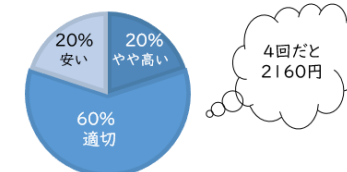
○将来的に土日に外部の専門的なコーチを呼ぶ活動の費用が保護者の負担になるのならば、(1か月1回3時間4回)でいくらぐらいが妥当だと思いますか。金額をお書きください。

安い方がありがたい(1人)、費用負担はしたくない(5人)、わからない(5人)、500円(3人)、1,000円(6人)、2,000円(2人)、3,000円(2人)、4,000円(1人)、10,000円(2人)

②自由体験型 地域クラブ活動（レア型）

保護者アンケート

○7回の活動で3800円(1回あたり540円程度)という参加料についてどう思われますか。



取組の成果

- 運営主体の収支構造については、「事務局運営費」については、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や市の自主財源等を活用する。よって、「スポーツ活動費」を受益者負担の対象に検証を行なっていくこととした。
- 受益者負担額の設定においては、1回あたりの指導者謝金を（時給1600円×3時間×2人 交通費各500円）10,600円と試算し、20人参加と考え、1回あたり540円とした。今回ダンスクラブで徴収した7回3,800円の徴収は、アンケートによると一定理解を得ることができたと考えられる。また、今回は費用徴収を行っていないが、ソフトテニス、ソフトボール、バスケットボールのコーチも高い評価を受け、地域クラブを部活動の延長と考えている層も一定いるものの、30%以上が月2,000円の費用負担を許容し、10,000円も2人という結果となった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

【共通】中学校全生徒数9,407人(うち、部活動所属生徒数8,254人)
 週1回(土日いずれか)3時間、年間40回の活動
 指導者謝金1,600円/時間、交通費500円/回

区分	試算条件	指導者数	指導者謝金等 (概算)	生徒1人あたりの費用
① 統括団体によるクラブ運営型 ・統括団体により地域クラブを運営する形	参加人数: 運動部+プラスバンド部=6,891人の 7割参加4,823人を想定 クラブ数:250クラブ	2人	106,000,000円	21,978円/年 →1,832円/月 保険料800円/年
② 自由体験型 地域クラブ活動(レア型) ・統括団体が、従来の学校にない競技を 新たな受け皿として設置し運営する形	参加人数: 1クラブ30人20クラブ=600人の 7割参加420人を想定 クラブ数:20クラブ 消耗品費:1クラブあたり50,000円/年	2人	9,480,000円	22,571円/年 →1,880円/月 保険料800円/年

本市の令和6年度の生徒数、部活動数から、指導者2名での指導するものとして、受益者負担額を試算した。

今後の課題と対応方針

今回のスキームでは、①統括団体によるクラブ運営型を受益者負担にしなかったため、収支としては大きなマイナスである。今後、受益者負担の検討や、企業版ふるさと納税など財源の確保についての検討の必要性も出てくる。

本事業のダンスクラブ単体で考えると、1回540円の受益者負担とした。今回必要となった指導者謝金・交通費を考えると、24人の参加者がいれば収支とすると、バランスが取れることとなる。

しかし、事務手数料、会場使用料を考えると、安定した参加者の確保や受益者負担の増加、国・府・市など行政の支援・企業版ふるさと納税などによる支援体制も必要である。

引き続き、受益者負担の検討する上で、公的施設利用に関する弾力的な運用や、企業によるスポンサー支援、地域人材を活用した指導者の確保など考えられる方策を検討し、部活動の地域展開に係る参加者の費用負担に関する環境を整備していくことを進めていく。

また、部活動の地域展開について地域や保護者等への周知を行い、理解してもらえるよう情報を発信していくことにも努めていく。

コスト及び収支バランス

委託額(支出額)	受益者負担(収入額)
令和6年8月~令和7年1月	ダンスクラブ受益者負担
3,198,701円	3,800円(7回分)×13人=4,9400円

ダンスクラブ1回あたり

会場使用料

公共施設のため、無料

指導者謝金

1800円/時間×3時間+1,000円(交通費)×2人
 =12,800円

12,800円÷540円(受益者負担1回分)=23.7人

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

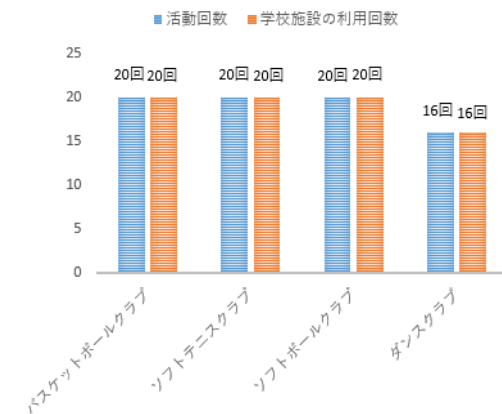
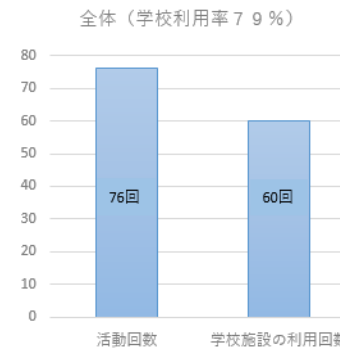
取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行なった。

○今回の活動は、該当中学校及び公共施設にて行なった。公共施設も行政利用ということで、無料で使うことができた。

取組の成果

○運営団体と中学校をつなげ、運営主体と中学校との繋がりを深め、全76回の活動において、約79%は、中学校体育施設を利用した活動となった。残りの21%は、教育委員会が確保した公共施設（教育文化センター）を利用した。



出典:枚方市教育委員会事務局作成

今後の課題と対応方針

○実証事業の活動日に部活動も行われていることから、グラウンドや体育館の調整は必要であった。引き続き、学校に部活動と実証事業の活動の調整をお願いし、事業趣旨の理解等を求める。

○今後、部活動の地域展開に伴い、地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設を利用しやすい環境を整える予定である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度の実証事業として、株式会社サクシードを運営団体として、招提北中学校にて3クラブ（土日のみ）を、学校外の教育文化センターにてひらかたダンスクラブを開催した。招提北中学校には、学校コーディネーターを置き、3クラブの統括と安全管理業務などを担った。保護者からも「安心である。」という評価もいただいております。遠方にいる統括コーディネーターと指導者との中継ぎとして一定の役割を果たした。また、各クラブの指導者は経験者2名体制とし、これまでの部活動に対して付加価値をつけることを意識した。生徒や保護者の満足度も高い値を示しており、また受益者負担についても、指導の質に鑑みれば一定の負担もやむなしという結果を得た。また、ひらかたダンスクラブは、全中学校の1, 2年生へのチラシ配付や市のSNS、ブログ、広報ひらかたでの発信を行ったが、期待する人数は集まらなかった。これは既存の部活動の時間と重複していることが理由の一つと考えられる。アンケート結果によると、生徒の満足度は非常に高く、保護者の受益者負担の理解も一定得ることができた。

●成果の評価

実証事業を行ったことで、机上では得られなかった様々な知見を得ることができた。質の高い指導者を確保することで、子どもの満足度が上がり、ひいては受益者負担の理解にもつながること、また、学校以外の団体が運営団体になることでの連絡方法の構築の必要性、また、統括コーディネーターの有効性など、実際に行ってみてわかることが多くあり、また新しい課題も数多く見つかった。その意味でも令和6年度の実証事業は多くの成果を出したと言える。

●今後に向けて

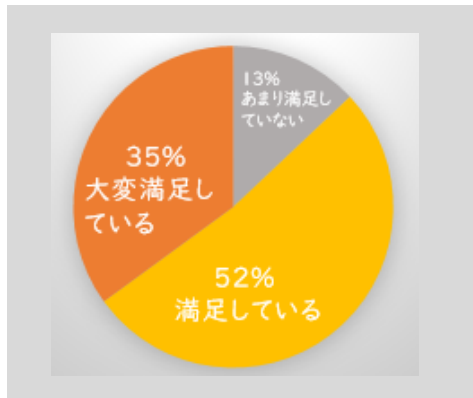
先述した通り、実証事業で多くの知見を得ることができた。今後は、実証事業の成果を課題をさらに分析し、枚方市中学校部活動の在り方懇話会で意見徴収をしながら、庁内委員会で検討、また更なる試行実施を行って、持続可能な地域クラブ活動「ひらかたモデル」の策定（実行計画）を進めていきたい。また、令和7年度は、地域クラブとしての要件なども検討を行い、地域にある（これから生まれるクラブ）を市として認定すること、また、今年度の実証のように、運営団体による指導者派遣型の両面を見据えながら、将来の学校部活動に代わる子どもたちの居場所づくりについて、引き続き検討していきたいと考えている。少子化の中でも、将来にわたり、枚方市の子ども達がスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保すること、地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術等に親しむ環境を一体的に整備し、子ども達の多様な体験機会を確保することをめざす姿として、今後も取組を進めていきたい。

2.実証内容と成果②

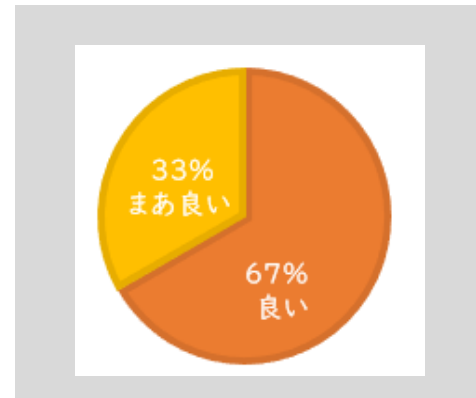
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

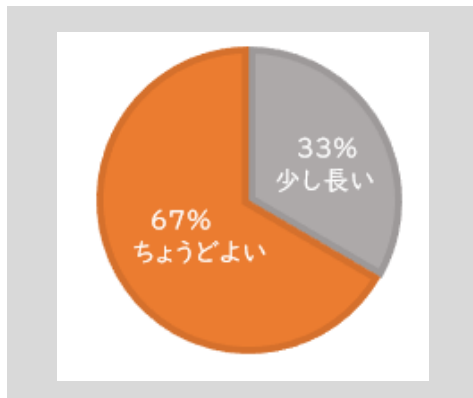
Q. (生徒) 地域クラブ活動に満足していますか。



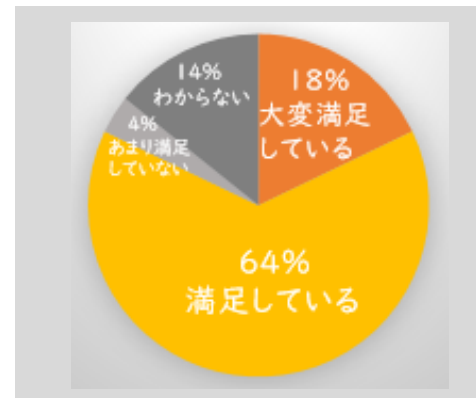
Q (生徒) いろいろな学校の人が集まって活動することはどうですか。



Q. (生徒) 1回3時間という活動時間についてどう思いますか。



Q. (保護者) お子さまは地域クラブの活動に満足していますか。



●参加者の声

中学1年生

インターハイ経験のあるコーチに教えてもらい勉強になる。また、ほめて指導してくれて、モチベーションも上がるし、練習の仕方、練習方法も考えられており非常に満足している。

中学2年生

ためになる練習メニューが多く、しっかりとわかりやすく教えてくれるし、基礎から丁寧に教えてくれてうまくなれたと思うので、満足している。

保護者

学校外のコーチに教えてもらうことで、子どもたちに緊張感を与え、礼儀を重んじる気持ちが上がったり、お話や体験談を教えていただくことで更なる向上心などが芽生えたりと良いことがたくさんあると思います。

指導者

中学生に教えることで、自分も学ぶことが多い。将来は、スポーツ指導者の道に進もうと考えており、とても良い経験が積めている。

枚方市地域クラブについてのアンケート (実施期間: 令和6年12月) の結果抜粋

広報資料

学校部活動は地域クラブ活動へ
～部活動改革に向けた取組が始まります～

部活動と地域クラブ活動はどこが違うの？

こんな悩みありませんか？

- 人数が集まらず、学校でチームが組めない。
- いろいろなクラブに入りたい。
- 学校のクラブ数が少なく、やりたいクラブがない。

枚方市のめざす姿

地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術等に親しむ環境を一体的に整備し、子ども達の**多様な体験機会**を確保する

少子化の中でも、将来にわたり、枚方市子ども達が **スポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会**を確保する

枚方市の部活動改革

昨年度のみなさんの声(アンケート)を参考に取組みを進めています

令和5年度 中学生のアンケート結果

部活動に込めている目的は？

- 友達と楽しく活動するため
- 体力・技術を向上させるため
- チームワークや協働性の大切さを学ぶため
- 大会やコンクールで良い成績を収めるため

地域クラブなどのような活動したいか？

- 平日の部活動と異なる趣味や文化活動をしたい
- 高等学校でも競技を続けたい
- 小学校から続けたい活動も継続したい

休日にあれば活動してみたいクラブは？

- テニス、バドミントン、卓球
- バスケットボール、ダンス
- バレーボール、剣道、音楽
- 数学は選んだ人が多い

①の型 会場は学校

①-1 部活動種目が上記のクラブの指導員を学校に派遣する型

①-2 教育委員会が休日・平日から各指導員を学校に派遣する型

③-1の型 会場は学校外

③-1-1 学校部活動にはない体験が学校外でできる型

③-1-2 大学生と大学で活動する型

FAQ

- Q いつ地域移行するの？
- Q 違う学校の生徒と活動するの？
- Q どんな活動パターンがあるの？
- Q 活動費はどうなるの？

DANCE! DANCE! DANCE!

+初心者大歓迎!

中学生対象ダンスクラブ

全7回

10/12 Sat 無料体験会

活動場所 枚方市教育文化センター

活動日時 土曜日 13:30～16:30

体験会前申し込みに550円

10月 26

11月 2・16・30

12月 7・14・21

参加費 3,800円 / 全7回

内容に関するお問い合わせ 枚方市教育委員会事務局 学校教育部 教育指導課

申し込み方法に関するお問い合わせ 株式会社7クワード 教育人材支援事業部

TEL 050-7105-8052

hirakata-bukatsu@succeed-jinzai.jp

【生徒への啓発チラシ】

出典:枚方市教育委員会事務局作成

【生徒への参加啓発チラシ】

出典:枚方市ダンスクラブ周知チラシ

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【ダンスクラブ】



【女子ソフトテニスクラブ】

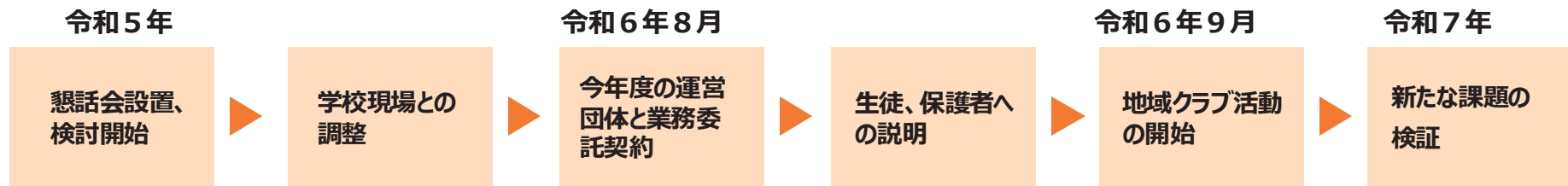


【ソフトボールクラブ】



【女子バスケットボールクラブ】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、株式会社サクシード 市長部局、
市教委、総括コーディネーター、学校コーディネーター

経過

令和5年度より検討のための懇話会を設置し、持続可能な地域クラブ活動「ひらかたモデル」策定に向けて、幅広く意見を聴取しながら検討を進めている。令和5年度の検討結果を踏まえ、令和6年度には本実証事業にて、多くの検証をすることができた。実証事業を通して、新たな課題も出てきたので、次年度も引き続き、課題の解決に向けて取組を行っていく。

実施内容

令和6年9月からは市内1中学校の3部活動において休日は地域クラブ活動へ参加する取組を開始した。学校コーディネーター1名と各クラブ2名の指導者を置き、このクラブは、当該中学校の生徒が参加する形である、また、学校外にダンスクラブを設立した。このクラブは、学校部活動の種目でない活動で市内全域から参加可能であり、受益者負担も求めている。

実施にあたって生じた課題

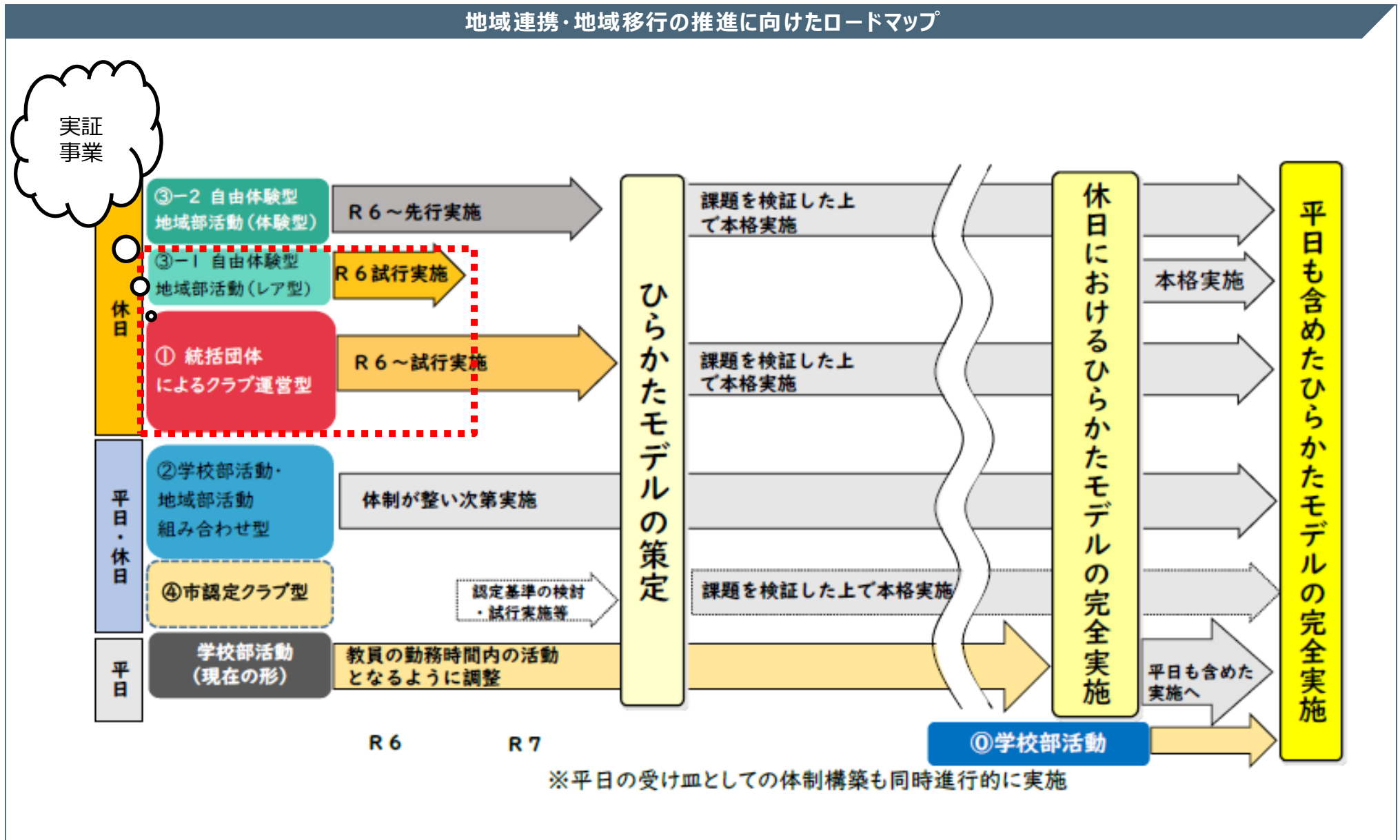
休日のクラブ活動において、活動場所の予約や鍵の貸出に対する学校の負担が大きいことが指摘された。学校コーディネーターにその役割を任せることで、負担の軽減につながると考えられる。また、欠席連絡や所連絡などの連絡手段の構築が急務である。学校コーディネーターが窓口として行っていたが、電話連絡では限界があり、専用のアプリの導入なども検討している。学校コーディネーターの役割については、今後ブラッシュアップしていく必要があるが、保護者の安心感、指導者の負担の軽減など一定の成果も得られた。

今後の展開

令和7年度も引き続き、課題解決のための取組を行い、並行して「ひらかたモデル」策定に向かって、協議・検討を行っていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大阪府 八尾市

自治体名：大阪府八尾市

担当課名：教育政策課

電話番号：072-924-3888

基本情報

面積	41.72 km ²
人口	259,461 人
公立中学校数	15 校 義務教育学校1校含む
公立中学校生徒数	5,992 人
部活動数	124 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	方針策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市では、「少子化による影響」「生徒のニーズとの乖離」「教職員の負担と指導者の不足」といった課題により、今後、学校部活動において、これまでと同様の活動内容を維持していくことが困難となることが想定されるため、令和4年10月より検討会議・学校現場部会の設置やアンケート調査を実施し、令和6年1月に「八尾市における部活動等のあり方に関する方針」を策定した。

今年度、実証事業により、活動日の検討、運営団体の整備に向けた検証、指導者の確保等の課題を検証し、円滑な移行に向けた検討を進めている。

【①少子化による影響】

生徒数の減少により、単独校でチームが組めず合同チームで活動している状況や、参加者が見込めず設置ができない種目がある。

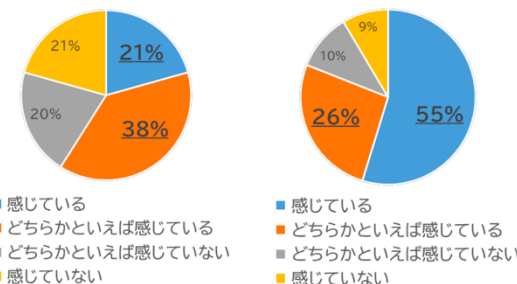
【②生徒のニーズとの乖離】

ニーズが高い種目をすべての学校で設置できてはならず、現在ほどの学校にも設置されていない種目もあり、それぞれの生徒のニーズに必ずしも応えることができていない状況にある。

【③教職員の負担と指導者の不足】

学校部活動の価値や意義を感じている一方で、学校部活動に携わることに負担を感じている教職員が存在している。また、少子化に伴う学校規模の縮小に伴い、教職員数の減少により、現状の学校部活動の維持に必要な部活動顧問が不足している。

【学校部活動に携わることのやりがい】 【学校部活動に携わることの負担】

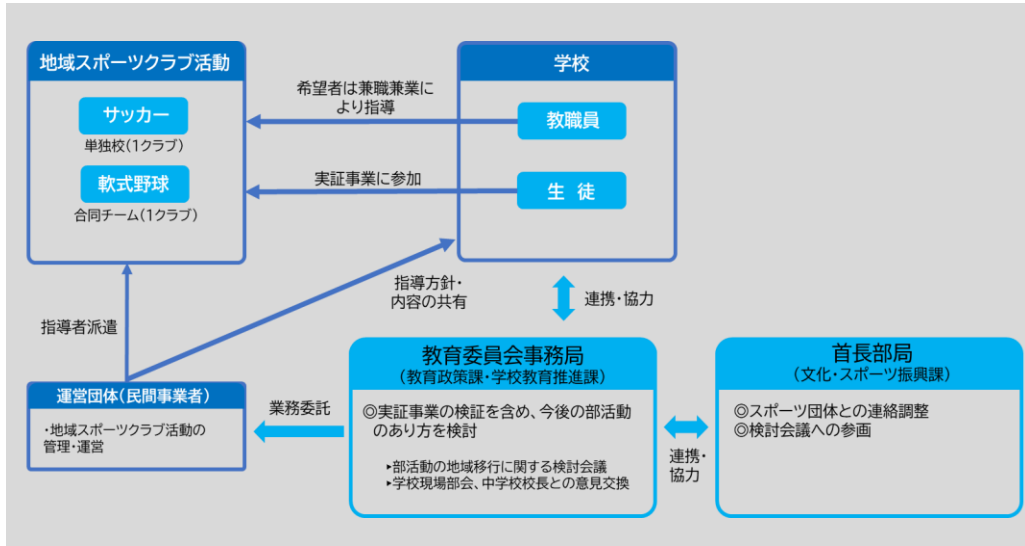


(令和4年度 部活動の地域移行に関するアンケートより)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・事業全般の企画、進行管理、効果検証
- ・本市の部活動のあり方の協議・検討、関係機関との連絡調整
- ・学校との連絡調整

◎首長部局

- ・スポーツ団体との連絡調整
- ・検討会議への参画
- ・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年4月	実証事業業務委託者選定
令和6年5月	実証事業業務委託者契約
令和6年7月	部活動の地域移行に関する検討会議①の開催、指導者確保（兼職兼業含む）クラブ活動開始準備、次年度クラブの検討
令和6年8月	学校現場部会①の開催、保護者説明会・参加受付等の実施、指導者研修等
令和6年9月	地域クラブ活動の開始、兼職兼業、財源確保策の検討開始
令和6年10月	学校現場部会②、中学校校長会との意見交換会①の開催、次年度クラブの選定
令和6年11月	部活動の地域移行に関する検討会議②の開催
令和6年12月	部活動の地域移行に関するアンケートの実施
令和7年1月	実証アンケートの実施、部活動の地域移行に関する検討会議③、中学校校長会との意見交換会②の開催
令和7年3月	地域クラブ活動の活動終了

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（2部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		－
全体の指導者数	10人	全体の運営スタッフ数	5人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
八尾市地域クラブ	民間事業者	サッカー	月2～4回	午前または午後 （3時間程度）	<中学> 1年生 11人 2年生 15人	9月～3月	学校施設 他	4人 （常時2人）	5人 （内、兼務5人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
八尾市地域クラブ	民間事業者	軟式野球	月2～3回	午前または午後 （3時間程度）	<中学> 1年生 12人 2年生 2人	9月～3月	学校施設 他	6人 （常時3人）	5人 （内、兼務5人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和6年度実施なし

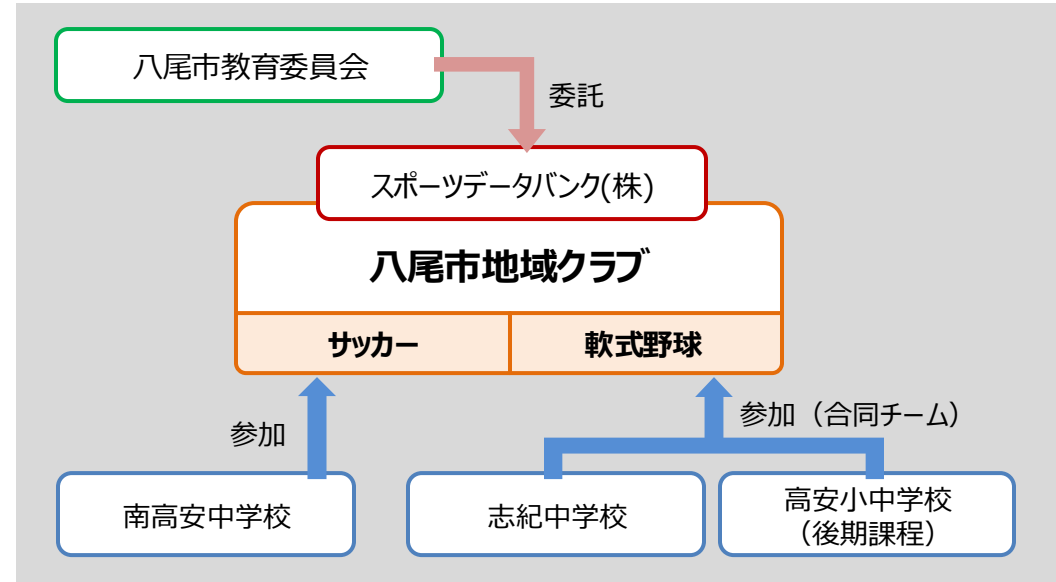
2.実証内容と成果

主な取組例

●八尾市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、軟式野球
運営団体名	スポーツデータバンク株式会社
期間と日数	サッカー：9月1日～3月31日 月2～4回程度 軟式野球：9月1日～3月31日 月2～3回程度
指導者の主な属性	スポーツ指導者 兼職兼業教員
活動場所	各学校施設 社会体育施設（試合時）
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：なし 軟式野球：なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 事業統括責任者・推進担当者
役割：事業における制度設計、各種資料作成、アンケート調査集計分析 等
- 統括責任者・コーディネーター
役割：制度設計、地域クラブの設置・運営、学校・指導者との連携、会議参加 等
- 主任指導者 2名
役割：各クラブにおける指導計画・活動日の決定、当日の指導及び報告、安全管理 等
- 副主任指導者 8名
役割：当日の指導サポート、クラブ運営にかかる報告サポート 等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

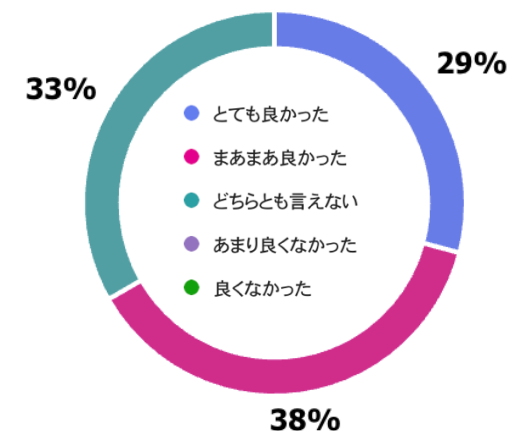
取組事項

- サッカー、軟式野球の2種目で休日における地域移行を検証した（指導者配置、指導者研修、保護者や生徒への各種連絡・対応、保険加入手続き、学校等関係者との連絡調整、生徒のけが等の緊急時の対応など）。
- 将来的な運営団体の設置と自走化に向けた、持続可能な運営体制を検討した。

取組の成果

- 民間事業者によるコーディネーターの配置等により、外部指導者の配置や兼職兼業による指導者の配置を実施でき、教員の負担軽減に対する一定の評価を得ることができた。
- ICTツール（グループコミュニケーションアプリ「BAND」）の活用により、活動の運営状況の確認やクラブの連絡体制（運営団体・指導者から保護者等への連絡）の効率化を図ることができ、保護者からも「活動についての内容や連絡事項などを確認できる。遅刻欠席などの連絡が楽」などの声があった。
- 将来的な運営団体の設置においては、市内体育施設指定管理者等との協議を行った。その他、財源確保策についても次年度以降に向けて協賛金獲得のための仕組みや事業者連携などを協議・検討した。

運営管理ツール(BAND)の使い勝手について評価



出典:実証アンケート調査結果(保護者)

コーディネーターの具体的な動きの実績

【統括責任者・コーディネーター】

- ・学校と指導者との連絡調整を実施し地域クラブの設置・運営を行った。
- ・参加者受付、保険加入、指導者研修や課題整理を行った。
- ・検討会議・学校現場部会への参加、制度設計に向けた検討を行った。

今後の課題と対応方針

ICTツールの活用に対し一定の評価を得ることができた一方、導入時の説明や多国籍対応などブラッシュアップをする必要がある。

将来的な運営団体の設置に向けて、市内体育施設指定管理者等との継続した協議、具体化をめざす必要がある。財源確保策においても実証による具体的な可能性検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 八尾市内の各種競技団体をはじめ、企業・大学等との連携の可能性を探るとともに、地域クラブ活動の指導を担う多様な人材の確保に向けた仕組みづくりを検討した。
- 地域クラブ活動での指導を希望する教職員が、指導にあたることができるよう、兼職兼業の制度を活用し、実運用について整理・検討した。

人材バンクの人数

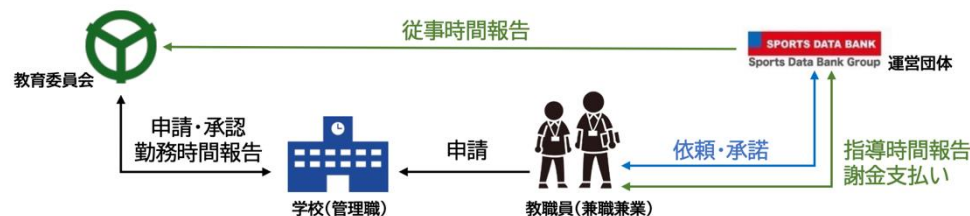
設置なし

登録者属性

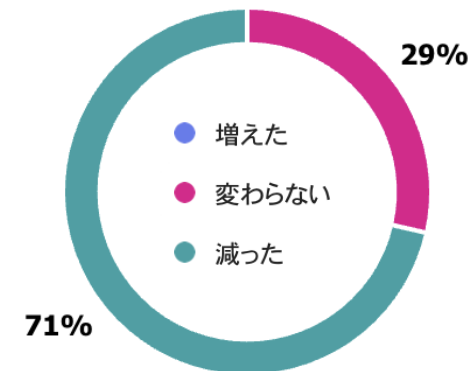
- ・市内で活動するスポーツチームの指導者
- ・実証事業実施校の顧問教員（兼職兼業）
- ・府内高等学校教員（兼職兼業）

取組の成果

- サッカーにおいては市内でも活動しているサッカークラブの指導者と連携し、ライセンス等を保有している専門指導者が指導に参加することで、これまで顧問教員のみで行っていた大会時の運営（審判の実施等）においても教員の軽減をすることができ、教員からも負担が減ったとの声があがっている。
- サッカー、軟式野球とともに顧問教員が兼職兼業で指導に従事しており、兼職兼業の仕組みを整理した。運営団体と教育委員会で、毎月の勤務時間と地域クラブ活動の従事時間の管理・確認を行い、指導時間の検証を行った。



10月以降の時間外在校等時間は10月以前に比べてどうですか。



出典:実証アンケート調査結果(兼職兼業の顧問教員)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【事前研修】

- ・対象：対象クラブにおける指導者
- ・目的：事業背景、業務内容（アプリ活用、クラブ運営、留意点等）
- ・手法：対面またはオンラインでの開催

【eラーニング研修】

- ・対象：対象クラブにおける指導者
- ・目的：地域クラブ活動におけるコンプライアンスやハラスメント防止等への理解促進のため
- ・手法：eラーニングによる実施
（スポーツデータバンク社・三井住友海上火災保険研修サービス）

指導者研修の参加実績

- ・開催日：8月～11月
 - ・開催回数：各指導者1回以上
 - ・参加人数：10人
- ※eラーニング研修は各個人にて受講。

受講者の声

●その他研修（自然災害への対応・コンプライアンス・ハラスメント等）

研修	主な内容	時間・方法
事前 研修②	・自然災害への対応（e-Learning）	e-learning （オンデマンド） 20分程度/各項目
	・救急救命・救護（e-Learning）	
	・防犯（e-Learning）	
	・コンプライアンス・ハラスメント（e-Learning）	
	・メンタルヘルスケア（e-Learning）	
	・個人情報保護（e-Learning）	



出典：運営団体研修資料



○受講した地域クラブ指導者の声

「e-Learningによる研修受講のため、スケジュール調整が容易だった。」
「動画・資料を繰り返し見ることができ、再度確認することができた。」

今後の課題と対応方針

○本年度実施した研修では、コンプライアンスやハラスメントなど競技指導以外においても指導者として必要な研修を運営団体にて実施した。指導者ライセンスを保有している指導候補者等からは、「研修に必ず受講しなければならないのか」等の声があったため、どこまで研修の受講の義務化をしていくかは今後整理が必要となる可能性があるが、まずは統一の研修内容を受講することで安心・安全なクラブ運営をめざしていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○本市の部活動の地域移行に関する検討会議（以下、「検討会議」という。）において、市内のスポーツ団体関係者に参画してもらい、専門的な見地からの助言を得るなど、関係団体との連携を図った。

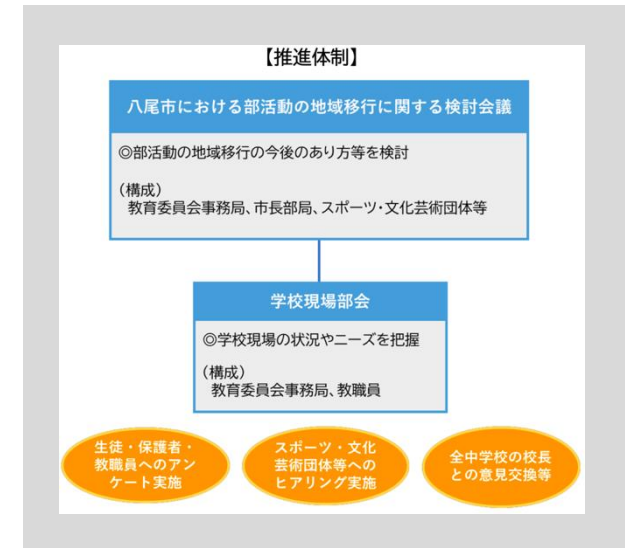
○ヒアリング等を通じて、市内の各種競技団体をはじめ、企業・大学等との連携の可能性を探った。

取組の成果

○検討会議を全3回実施し、実証事業の取り組みや八尾市における地域クラブのあり方、仕組みや財源確保策について議論を重ねることができた。

○これまでの議論を踏まえて、次年度以降、地域クラブのタイプを2つに分け、**これまでの学校部活動をベースとした活動であるタイプⅠとこれまで部活動としてなかった種目を競技団体等が中心に活動するタイプⅡ**での仕組みとする。

○令和4年度に実施したアンケート調査の結果等を受け、いくつかの市内競技団体や本市が連携している企業等とのヒアリングを実施し、来年度、バドミントン協会・ダンス協会・ボウリンク実施企業、演劇系団体との連携によるタイプⅡ（通年型・イベント型）での地域クラブ設置の準備ができた。



今後の課題と対応方針

各団体との協議の結果、来年度実施主体として連携できることの整理ができた。今後もタイプⅡとしての実施による種目の拡大と生徒の多様なニーズに対する受け皿の整理を進めていくことをめざすため、様々な市内団体・企業等との連携強化を図る。一方、学校部活動をベースとしたタイプⅠにおいては、単独校のみの地域クラブ化ではなく拠点校化をベースとして設置をめざす。そのために大阪府にて設置をしている人材バンクの活用も行いながら、指導者の確保、地域展開・地域クラブ化をめざす。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○実証事業の効果検証として、生徒、保護者、教職員を対象としたアンケート調査を実施するなど、活動の満足度の向上や多様なニーズに応じた活動機会の確保についての検討を行った。

○あわせて、今後の八尾市における部活動の地域移行に向けた検討（生徒のニーズ、参加費の設定等）の参考とするために、小学6年生、中学1・2年生とその保護者を対象とした「部活動の地域移行に関するアンケート」を実施（右の図表のとおり）し、次年度以降の取り組みにつなげた。

活動の詳細（部活動の地域移行に関するアンケート調査の詳細）

実施概要	期間：令和6年11月29日～令和7年1月6日 手法：Webアンケート調査（希望者のみ、紙媒体で対応） ※多国籍在住者向けに英語・中国語・ベトナム語の3ヶ国語に翻訳
対象者	児童・生徒：市内小学6年生、中学1・2年生 保護者：市内小学6年生、中学1・2年生の保護者
対象人数	12,272人（R6.5.1参考） ・小学6年生 2,152人 ・中学1・2年生 3,984人 ・保護者 6,136人



出典：アンケート実施の案内状



出典：Webアンケートフォーム

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

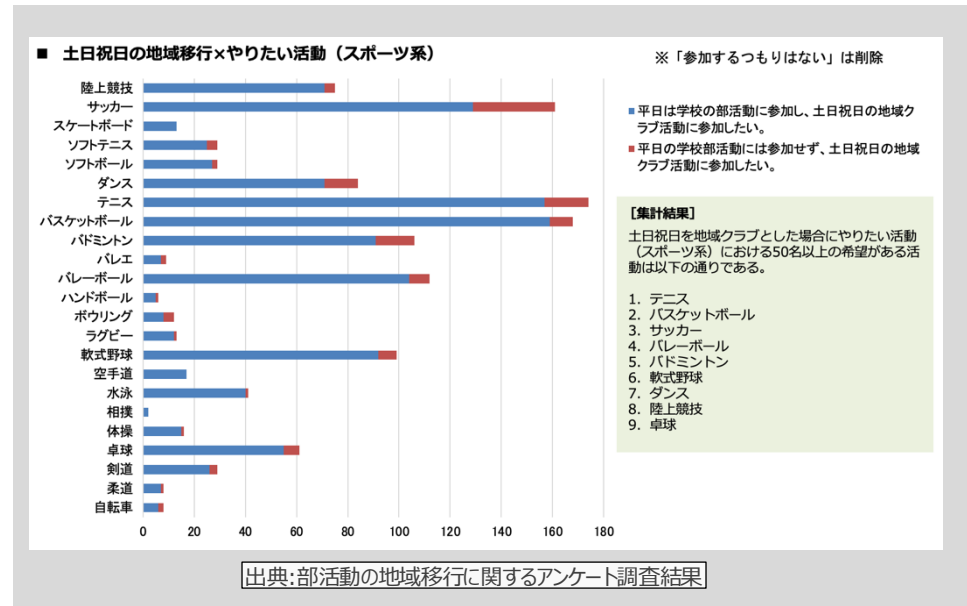
●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○児童（小学6年生）・生徒（中学1・2年生）におけるニーズ調査の結果、児童において土日祝日の地域クラブにてやってみたい活動は「バスケットボール」が最も多く、次いで「テニス」、「バドミントン」であった。一方、中学生では、「テニス」「バスケットボール」「バドミントン」であった。

○本市の部活動では、現在男子のバドミントンやバレーボールが一部の学校にしかなかったり、ダンス部は部活動としてなかったりするなか、**中学生のニーズとしては一定数以上が「やりたい」と回答していることから、ニーズがあることが伺える。**

○児童へのアンケート調査の結果では、土日祝日の活動に参加したいとの回答は約30%であり、64%が平日のみの活動を希望していることがわかった。また、「どのような活動に参加したいか」という設問では、「自由に参加できる（全日参加しなくて良い）」が最も多い回答であった。



今後の課題と対応方針

今回のアンケート調査の結果を受け、生徒（中学1・2年生）においては、現在部活動で実施されている種目のニーズが高い一方、バドミントンやバレーボール、ダンスなど、一部の学校にしか部活動がない種目や部活動がない種目に対しても一定以上のニーズがあったため、タイプⅡによるクラブ設置により生徒の多様なニーズに応えることができると考えている。一方、児童（小学6年生）においては、ニーズはあるものの、土日祝日の活動に対する参加希望が低いため、将来的に土日祝日の活動においては、参加者が減少する可能性があることも危惧されるため、参加率の向上も含めた検討が必要であると考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○検討会議において、市内のスポーツ団体関係者や民間事業者に参画してもらいながら、活動の持続的な実施に必要な財源の確保策について検討を行った。

地域クラブに係る経費（6クラブ実施想定）

■イニシャルコストの分析

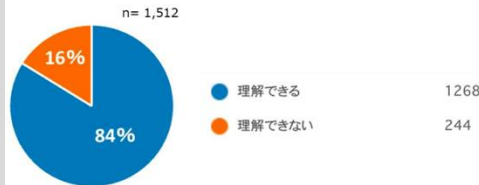
- ・ホームページ運用費用（679千円）
- ・広告宣伝・印刷製本費（405千円）

■ランニングコストの分析

- ・会場借料（180千円）
- ・指導者謝金（4,100千円）
- ・旅費交通費（328千円）
- ・事務局人件費（3,179千円）
- ・消耗品費（32千円）
- ・保険料（211千円）
- ・雑役務費等（1,481千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

Q. お子さまが地域クラブ活動に参加する際、お子さまの保険料や参加費など、費用負担が増えることについて、あなたの考えに近いものを教えてください。

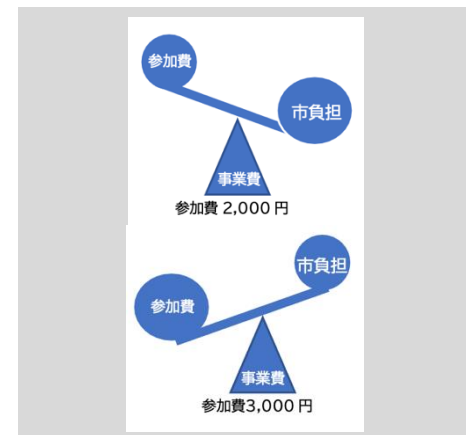


出典：部活動の地域移行に関するアンケート調査結果

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。

試算は次年度の予算を踏まえ、種目ごとに必要な事業費、実施期間、定員、アンケート結果から参加費を設定した。（タイプⅡにおける参加費）

収支バランス



出典：本市検討会議資料

本市における費用負担の方向性、市費とのバランスを踏まえ、令和7年度の実証事業（予定）におけるタイプⅡの参加費の設定を行った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

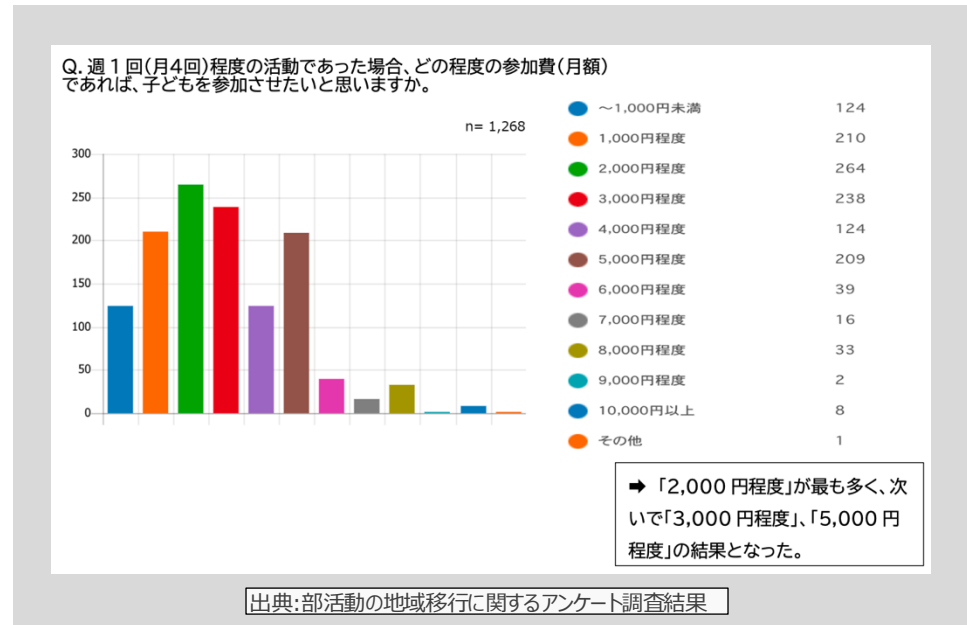
○継続した取り組みをめざすためには、一定の保護者負担（参加費徴収）が必要となるが、将来的な費用負担の方向性として、タイプⅠとタイプⅡの取り扱いの整備を行った。

・**タイプⅠ：低額な参加費を徴収**（実証事業での徴収はなし）

・**タイプⅡ：種目ごとに設定した参加費を徴収**（事業費は参加費で賄い、基本は市の負担なし・実証事業では市の負担により参加費を抑制して徴収）

○タイプⅡでは、市費と参加費徴収のバランスから月額3,000円の徴収とその他教材、用具に係る費用は別途保護者負担での実施とする（予定）。

○参加費等からの歳入の他、市内事業者と連携した協賛金獲得の仕組みを検討し、次年度の実証事業に向けた仕組みづくりを行った。



今後の課題と対応方針

財源確保策においては、タイプⅠとタイプⅡの方針を分けた上で検討し、将来的にタイプⅡは自走ができる制度構築が必要であるという結論に至った。実証事業期間は市費により参加費の抑制をしているが、自走化となるにつれ、各団体の活動における参加費はあがっていくことが予想される。また、今後タイプⅠの拡大も必要となることから、市費での予算確保だけでは難しくなることを踏まえ、その支援策として、検討会議に市内のスポーツ団体関係者として参画いただいている市内事業者と運営団体が連携し、個人・企業からの協賛金獲得の仕組み構築をめざしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

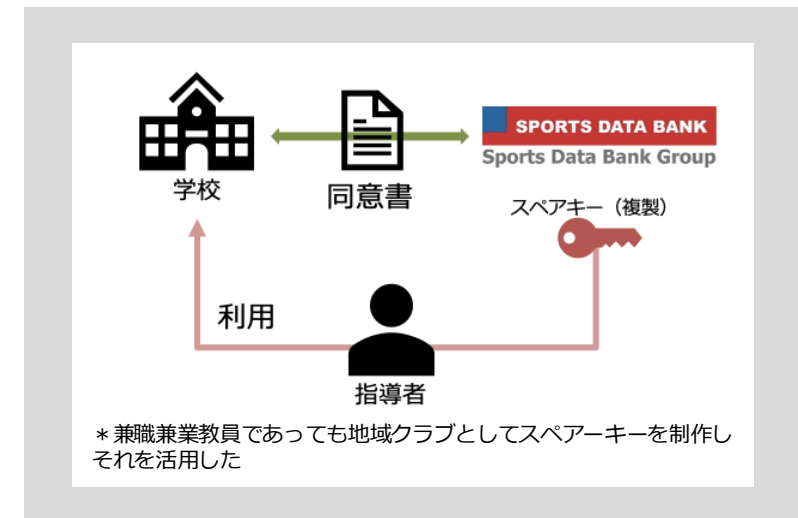
取組事項

○学校管理下外の地域クラブ活動での学校体育施設の活用・管理方法等について、関係部局とも連携しながら検討会議等で検討した。

取組の成果

○今年度の実証事業では、各顧問が兼職兼業で指導者として入っているが、地域クラブ活動であるため、別途必要なスペアキーを制作するとともに、校舎内（保健室）等の活用はなしとして実施した。スペアキーの管理は主任指導者が行い、副主任が交代で指導に入っても活動が行える環境とした。

○実証クラブ数が少ないことから、複製数は少なく済んでいるが、今後多くなった場合のセキュリティの課題は出てくることが予想されるため、学校開放との連携もあわせた検討を引き続き行う。



今後の課題と対応方針

今年度の実証事業では、学校体育施設のみでの活用かつクラブ数が少ないこともあったため、必要分のみのスペアキーの複製のみで実施をすることができたが、将来的に地域クラブが増えた際には、セキュリティ面の課題が出てくるため、引き続き検討が必要である。なお、次年度は社会体育施設や民間施設の活用も検討しており、その場合には各施設の貸出ルールに則っての活動を予定している。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度より本市では、実証事業を通して具体的な地域移行に向けた仕組みづくりや財源確保策の検討、次年度以降に向けた各関係者との連携強化等を実施した。

実証実証においては、参加生徒より高評価を得ることができ、顧問教員においても兼職兼業で指導に入っている中でも負担軽減となっていることが見られたことから実証1年目として一定の評価を得られる結果であった。一方、軟式野球においては合同チームでの実施であり、移動の課題や大会参加時の対応などの課題が出ていることから、次年度以降、合同チームによる運営の課題整理を行っていく必要があると考える。

また、事業全体の実施形態として、タイプⅠ・タイプⅡの整理や競技団体・市内企業とヒアリングを通じた連携強化を図ることができたため、次年度以降に向けて多様なニーズに対する新しいクラブの設置や子どもたちの環境整備の具体化を図れるところまでカタチづくりを行うことができた。次年度以降には、タイプⅠ・タイプⅡによる実証及び検証、今年度検討した財源確保策の実証及び検証を行い、持続可能な地域移行（展開）をめざしたい。

●成果の評価

【アンケート結果からの評価】

- 生徒満足度：よかった70%/どちらかと良かった30%の高評価であった。
- 顧問教員の負担軽減：減った71%/変わらない29%と半数以上が勤務時間の縮減ができた。

【検討事項における評価】

- 仕組み構築：事業全体の実施形態の整理（タイプⅠ・Ⅱ）ができた。
- 関係各所との連携強化：市内競技団体・企業との連携強化を図ることができた。
- 財源確保：参加費の設定（タイプⅡ）とその他財源確保策の検討及び次年度の実証事業につなげていく準備ができた。

●今後に向けて

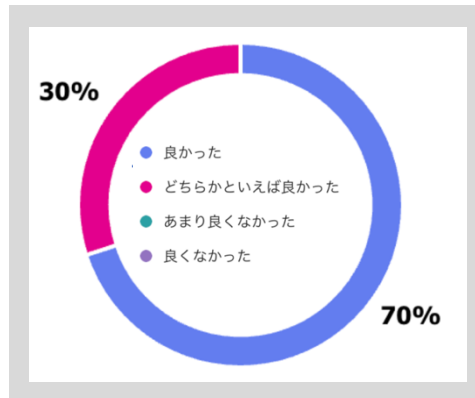
本市では令和8年度以降を見据え、今年度と令和7年度に実証を行う予定であり、それらの効果検証をもとに最適な実施形態を検討していくこととしている。そのため、来年度の実証事業では、タイプⅠ・Ⅱの実施（地域クラブの拡大）、財源確保策の実証などを踏まえて、持続可能な取り組みに向けた検討を行うとともに、保護者や地域住民向けに、本市の取り組みについて周知・発信を行うことで、市全体として子どもたちのスポーツの環境づくりをめざしていきたい。

2.実証内容と成果②

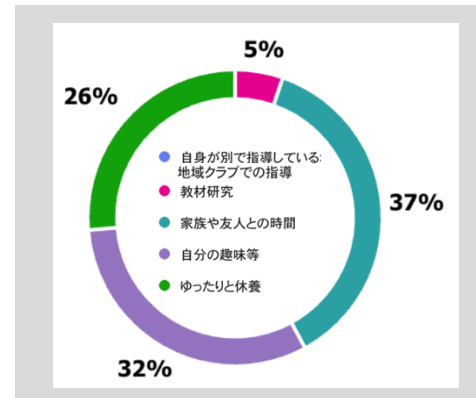
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

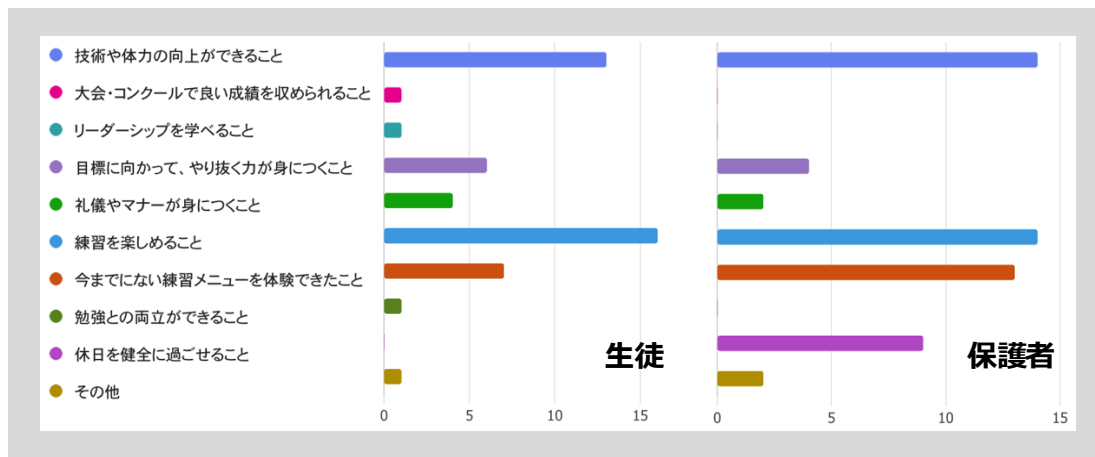
Q. 地域クラブの活動に参加に対する満足度（生徒）



Q.地域移行によって休日にできた時間をどのように過ごしていますか。（顧問教員）



Q.地域クラブの良いところ、満足しているところを教えてください。（生徒・保護者）



●参加者の声

保護者

他校に行って練習した時など子どもにとってはそれが新鮮で、よりやる気の向上に繋がってるように思います。勝ち負けも大事ですし、1番は楽しんで練習して欲しいと思います。

保護者

有償で、もっと厳しくいろいろと教えてもらえて、上達して、勝つ事を経験してくれるような状態にもってってもらえるなら、有償がいい。

指導者（兼職兼業教員）

顧問の指導が3週に1回となったことで、負担が大幅に減った。また、外部指導者が保護者への連絡や試合における生徒への指示や審判業務を行うことで教職員の負担は減っている。

指導者（外部指導者）

うまくいっていないわけではないが、単純に週末しか会わず、普段の学校生活での姿を把握出来ないのが、指導以外の人間性等の指導は難しいと感じる。

2.実証内容と成果③

広報資料

地域移行（展開）の背景や本市の取り組み、今年度実証内容について保護者向けに周知するため、リーフレットを作成し市内中学1・2年生を対象に配布した。また、外国籍の家庭も多くいることから、リーフレットは英語・中国語・ベトナム語に翻訳を行い、希望する家庭には翻訳版の配布も行うことで、丁寧に周知した。

リーフレットの配布とあわせて意識調査（＝「部活動の地域移行に関するアンケート調査」）を実施することで、本市の部活動改革についての理解促進を図ることができた。また、今後の取り組みも見据え、専用Webサイトを制作しており、今後の地域クラブ実施情報等の周知にも活用していく予定である。



【周知用リーフレット】

出典:周知用リーフレットより



【専用Webサイト（イメージ）】

出典:特設専用Webサイト参考ページより

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【サッカークラブ活動の様子①】



【軟式野球クラブ活動の様子①】



【サッカークラブ活動の様子②】



【軟式野球クラブ活動の様子②】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年～令和5年度

検討会議・学校
現場部会設置、
検討開始

八尾市における部
活動等のあり方に
関する方針の策
定

令和6年度

運営団体の選定
指導者確保、地域
クラブ設置準備

生徒、保護者へ
の説明

地域クラブ活動
の開始
次年度実施種目
決定

令和7年度

地域クラブ活動
の拡大

ステークホルダー

市長部局、市教委、学校(校長会、管理職、運動部顧問)
市内スポーツ団体、競技団体、総括コーディネーター

経過

令和4年度より検討会議・学校現場部会を設置し、令和5年11月よりスポーツ関係団体がアドバイザーとして会議出席し専門的な見地からの助言を得ながら協議を行ってきた。令和6年1月には「八尾市における部活動等のあり方に関する方針」を策定し、令和6年度より地域移行に対する知見を有している民間事業者を運営団体とした地域クラブの実証を開始した。

実施内容

令和6年9月より市内3中学校の2部活動（1部活動は合同チーム）において月2～4回程度の地域クラブ活動を開始した。各クラブ対象は部活動に在籍している生徒のみとし、希望する顧問教員は兼職兼業で指導者として従事する形で実施した。

実施にあたって生じた課題

顧問教員が指導に入っていることから学校施設の利用について協議が必要であったが、地域クラブの実証としてスパーキーの複製や校舎内の利用不可等の整理を行った。

合同チームの活動において、活動場所への移動が必要であったことから、当初は生徒のみで移動することとしたが、安全管理の観点から、兼職兼業の教員が引率し自転車による移動を実施している。子どもの安全性や移動の負担、指導者の引率対応など課題がある。

実施内容、工夫した点等

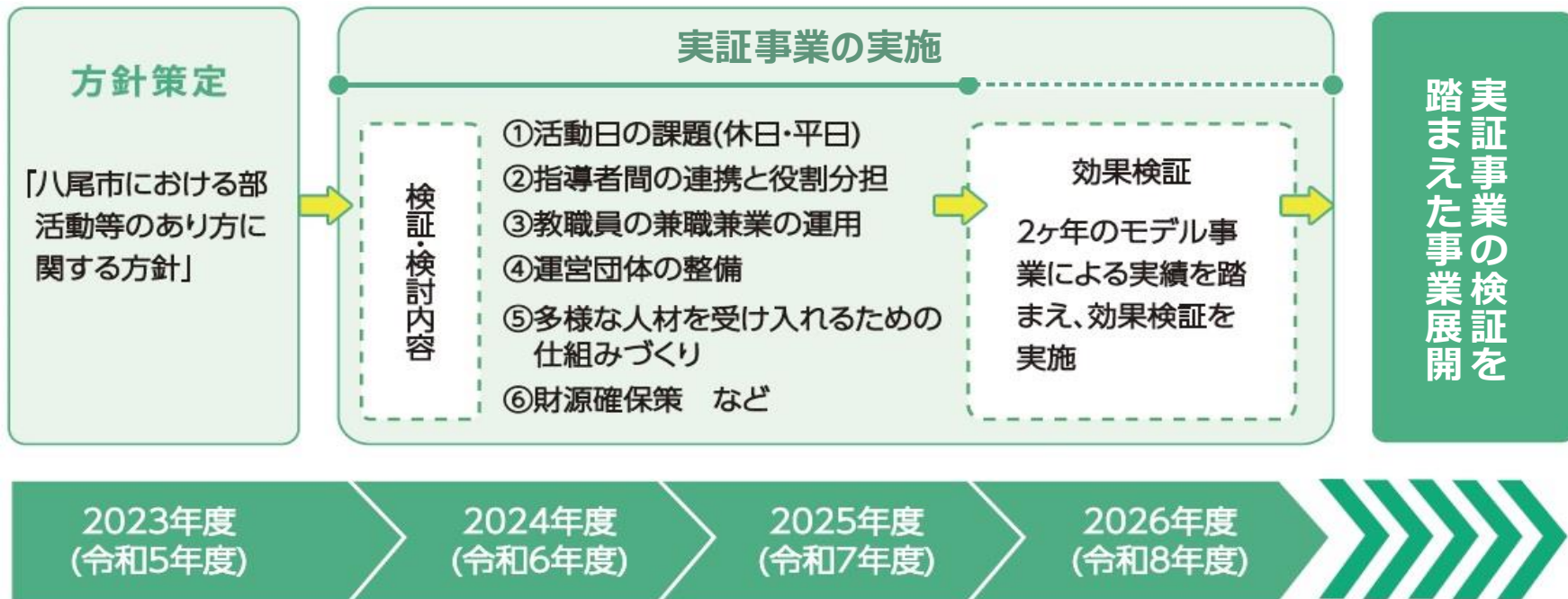
本市の取り組みや部活動の地域移行（展開）をより周知するため、リーフレットの制作とWebサイトの制作を行った。

リーフレットは意識調査とあわせて配布を行うことでより内容を理解された上で回答をいただくことができた。

次年度クラブの拡大を見据え、夏以降より次年度に向けた関係団体等との強化を図ることで、次年度年度当初からの動き出しを行うことができるようになった。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度及び令和7年度の実証事業（予定）による実績を踏まえ、令和8年度に効果検証を行い、本市として最適な実施形態で、以降の取り組みを進める。